

15 調庸の貢進とカツオ付札木簡..... 34

16 駿河国正税帳と益頭郡財政..... 36

17 小川駅と東海道..... 38

第1章 自然

1 高草山の成り立ち―海底からの隆起..... 6

2 古志太湾の出現と志太平洋の生い立ち..... 8

3 断崖絶壁の岩石海岸となだらかな砂礫海岸..... 10

4 焼津の動物..... 12

5 焼津の植物..... 14

6 焼津の魚介類..... 16

第2章 原始・古代

7 農耕のはじまり..... 18

8 古墳の出現と展開..... 20

9 古墳時代の集落と耕地..... 22

10 群集墳の広がり..... 24

11 副葬品あれこれ..... 26

12 ヤマトタケル伝承と焼津..... 28

13 古代の氏族と国造..... 30

14 益頭郡の成立と郡家..... 32

第3章 中世

18 益頭庄と方上御厨..... 40

19 益頭庄地頭北条時政..... 42

20 守護今川氏と焼津..... 44

21 小川湊の繁栄..... 46

22 法永長者にかかわる人々..... 48

23 戦国大名今川氏と焼津..... 50

24 花沢城の落城と当目合戦..... 52

25 家康の五カ国支配..... 54

26 総検地と小田原攻め..... 56

27 有徳人の館・小川城..... 58

28 多彩な器物が物語る館の暮らし..... 60

第4章 近世

29 中村氏支配下の焼津..... 62

30 太閤検地と横田村詮法度..... 64

31 近世焼津の領主たち..... 66

32 幕領と藩領..... 68

33 近世初期の検地..... 70

34 大覚寺村の検地..... 72

35 新田開発と請所新田..... 74

36 年貢とその推移..... 76

37 村役人と村政..... 78

38 入会地相論の展開..... 80

39 山野相論の展開..... 82

40 用水の普請と相論..... 84

41 東海道と焼津の村々..... 86

42 近世の漁業..... 88

43 海運と海難..... 90

44 村の出来事..... 92

45 ムラとイエ..... 94

46 近世人の一生..... 96

47 近世焼津の文化..... 98

第5章 近代

48 町村制の実施―旧村から新町村へ..... 100

49 地租改正と地価修正..... 102

50 近代学校の成立..... 104

51 鉄道敷設―焼津藤枝間軌道線・東海道線..... 106

第6章 現代

70 焼津の農地改革..... 144

71 地方自治制度―焼津の市制成立..... 146

52 日清・日露戦争の日々..... 108

53 水産業の組織化と漁船の動力化..... 110

54 農業の発展..... 112

55 小泉八雲の焼津..... 114

56 焼津町の米騒動..... 116

57 大正デモクラシー期の地方自治..... 118

58 大正デモクラシー下の教育..... 120

59 水産業の発展―沖合漁業・沿岸漁業..... 122

60 大正期の農業と農家経営..... 124

61 焼津の金融活動..... 126

62 昭和恐慌期の地方自治..... 128

63 昭和恐慌期の農漁村の状況..... 130

64 缶詰産業の形成―マグロとミカン..... 132

65 近代焼津の文化..... 134

66 戦時下の経済統制..... 136

67 学童集団疎開と学徒勤労動員..... 138

68 海軍航空隊藤枝基地と軍徴用焼津漁船..... 140

69 戦争犠牲者..... 142

# 48 町村制の実施—旧村から新町村へ

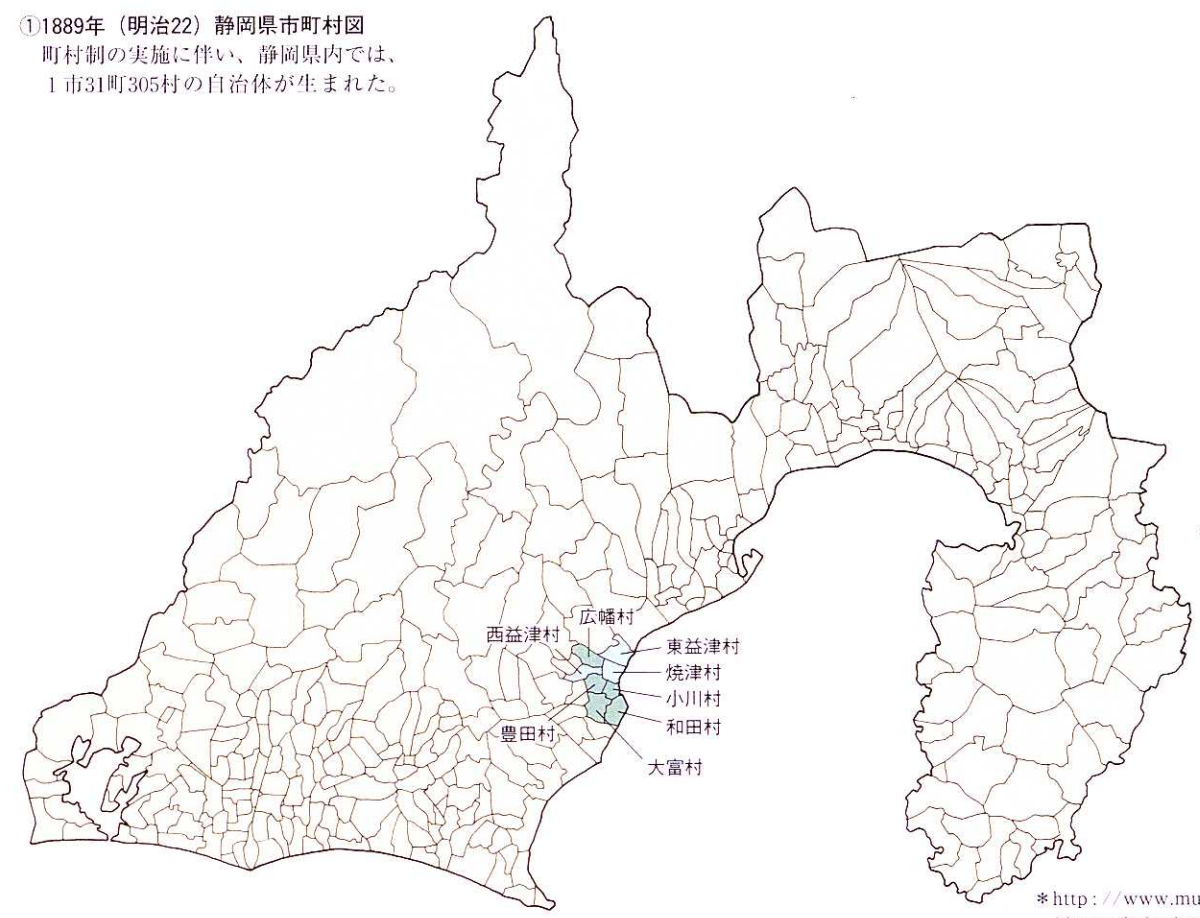
明治政府は、全国的に大規模な町村合併を強行し、旧来の数町村を合併して一つの町村につくりかえた。そして、それを前提として、一八八八年（明治二二）四月、市制・町村制（法律第一号）を公布し、ドイツ的な地方自治制度を導入した。

第一に、町村制は、町村を単なる行政区域というだけでなく、あらたに法人（権利義務の主体となる団体）とし、中央政府の監督下で町村公共事務を処理する機関とした。

第二に、町村制は、町村内に住居する者を「町村住民」と呼び一定の権利・義務を認めた。さらに町村住民のなかで町村運営に参加できる者を「町村公民」とし、町村運営の核となる名誉職（町村長、助役、町村会議員など）の選挙権・被選挙権を付与した。

しかし、第三に、町村長・助役の選挙結果については、県知事（当時の知事は、中央政府によって任命された官僚知事）の認可を必要とした。県知事は、選出された人物を不相当と判断すれば、選挙結果を拒絶することも可能であった。

ようするに、当時の町村は、一方で一定の「人民自治」を認められていたものの、他方で《中央政府―県知事―町村長》のルートを通じて強力な官僚支配（官治的支配）を受ける存在でもあった。



②1902年度（明治35）焼津町民租税負担額（国税・県税・町村税別）

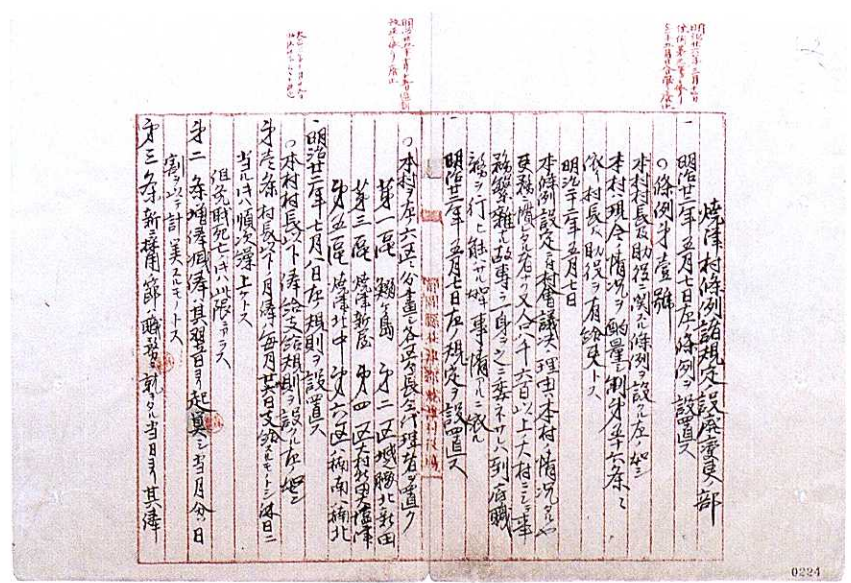
税種	国税					県税							町村税 町村税 合計	租税負担 額合計			
	地租	所得税	営業税	自家用 醬油税	売薬税	地租割	戸数割	営業税	雑種税	所得税 付加税	営業税 付加税	売薬営業 税付加税			鉦業税 付加税	県税 合計	
納税額	5,204	610	2,658	0	5	8,477	1,743	1,340	1,029	1,620	61	532	0	0	6,325	9,976	24,778
比率(%)						34.2									25.5	40.3	100.0

\*「静岡県志太郡焼津町形勢」より作成。  
②市制・町村制のもとで、地域住民はどれくらい税金を納めていたのだろうか。資料の残っている焼津町の場合をみると、1902年度、町民1人当たり全納税額の約40%を町に、約34%を国に、約26%を県に納めていた。当時の税の中心は、地租（土地保有税）とそれに連結する地方税であった。

### ③市制・町村制に伴う町村合併

1886年郡町村名	1889年郡町村名	
焼津村	焼津村	
新屋村		
北新田村		
城ノ腰村		
鯛ヶ島村		
中 村		
焼津北村		
八楠南村		
八楠北村		
大 村		
大村新田	西益津村	
塩津村		
大覚寺上村		
大覚寺下村		
岡当目村		
浜当目村		
小浜村		
野秋村		
花沢村		
吉津村		
高崎村	東益津村	
石脇上村		
石脇下村		
中里村		
坂本村		
方ノ上村		
関方村		
策牛村		
越後島村		
小土村		豊田村
保福島村		
五ヶ堀ノ内村		
三ヶ名村		
小屋敷村		
柳新屋村		
小柳津村		
大住村		
三右衛門新田		
中根村	大富村	
中根新田		
本中根村		
中新田村		
治兵衛長次右衛門請所		
大島村		
大島新田		
道原村		
禰宜島村		
上小田村		和田村
三郎兵衛新田		
下小田村		
田尻北村		
田尻村		
北新田村		
一色村		
惣右衛門村		
小川村	小川村	
石津村		
与惣次村		

③現焼津市域内には1886年（明治19）現在で58カ村が存在していたが、大規模合併の結果、1889年（明治22）には8カ村に激減してしまった。  
\*平凡社編『日本歴史地名大系第22巻 静岡県の地名』1304頁以下より作成。



④「焼津町沿革誌」記事 町村制施行後、焼津町が最初に制定した条例は「村長及助役二関スル条例」であることが記されている。



⑤大富村役場跡現況（焼津市中根新田）



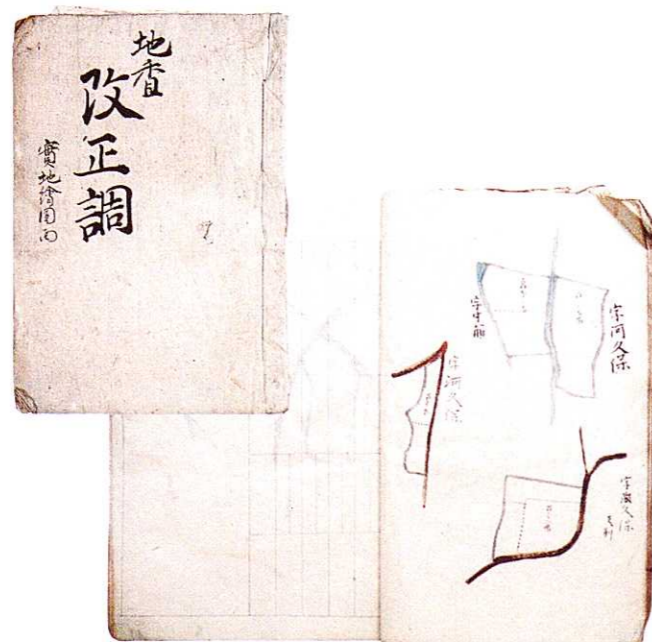
# 地租改正と地価修正

一八七二年（明治五）八月、静岡県（旧駿河国を管轄）は、いわゆる「壬申地券」の発行事業を開始し、遅くとも一八七四年（明治七）前半までには大方の土地の所有者に地券を交付した。ただ、壬申地券は土地所有者と地価額を確認するという役割を担うのみで、租税徴収という機能はなかった。土地から租税を徴収するために地租改正事業が開始されたのは、静岡県の場合、一八七五年（明治八）三月以後であった。それは改めて土地の実地測量と地価調査を行い、それをもとに土地所有者に「改正地券」を交付するというものであった。焼津市域における実地測量が完了したのは一八七六年（明治九）一二月中のことで、測量を終えた村々には「実地丈量検査済証」が交付された。さらに地価調査が完了し、静岡県に対し明治政府による改租許可が与えられたのは一八八〇年（明治一三）一月であった（ただし耕宅地のみ、山林原野はまだ完了していない）。そして、同年八月以降（焼津市域は一月以降）、土地所有者への改正地券交付が開始された。

こうして封建的な年貢負担制度は近代的な土地租税制度に転換させられた。しかし、地租改正による土地測量や地価調査には不備・不正確な点も多く、全国的に地価修正が強く求められた。



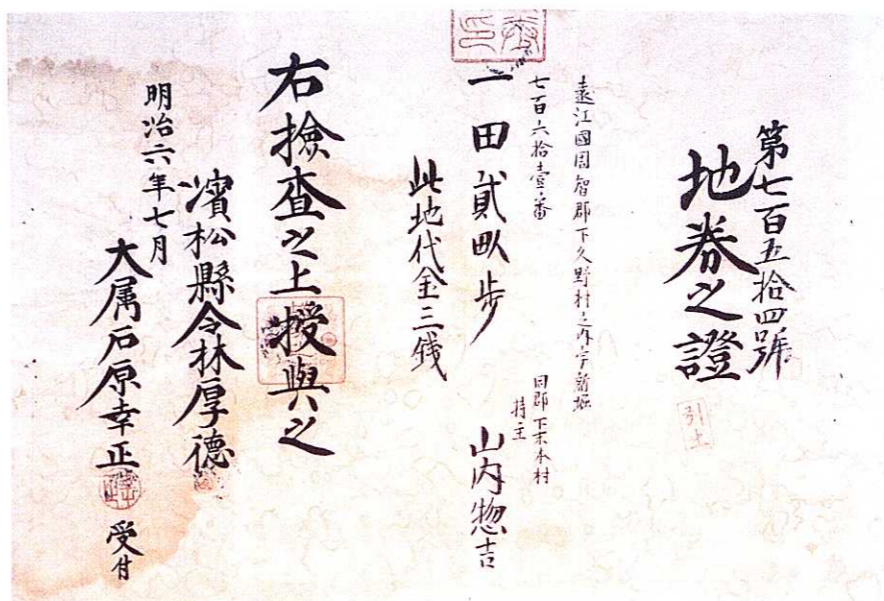
③地租改正人民心得書 静岡県は、1875年（明治8）6月、「地租改正人民心得書」（右）を定め、地租改正事業を本格的に開始した。最初に取り組んだのは土地の実地測量であった。左の資料は、改正地券発行のもととなる「地租改正地券大帳」の編製に係る静岡県令の布達（1880年6月）である。



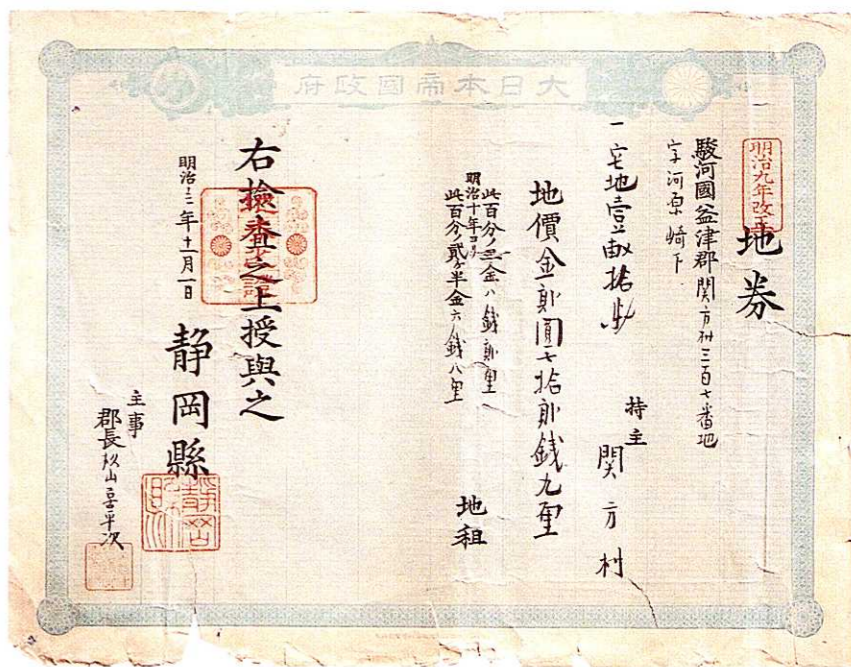
④地租改正調 実地測量の結果を字単位で作図したものを「字限図」という。この「地租改正調」は字限図を編綴したものである。



⑤改正地引絵図 1876年（明治9）12月、実地測量を完了した関方村は、一筆ごとに作成した「一筆限歩詰絵図面帳」やそれを村単位でまとめた「改正地引絵図」を静岡県に提出した。左の写真は、その下絵または副本である。これ以後、地租改正は第二段階（地価調査）に入る。



①壬申地券 壬申地券は焼津市域内では発見されていない。写真は浜松県において発行・交付されたものである。壬申地券には、地番、土地面積、地代金額、地主名が墨書で記載された。静岡県では、この壬申地券は、1880年に改正地券が交付されるまでの間、不動産金融などの面で活発に利用された。



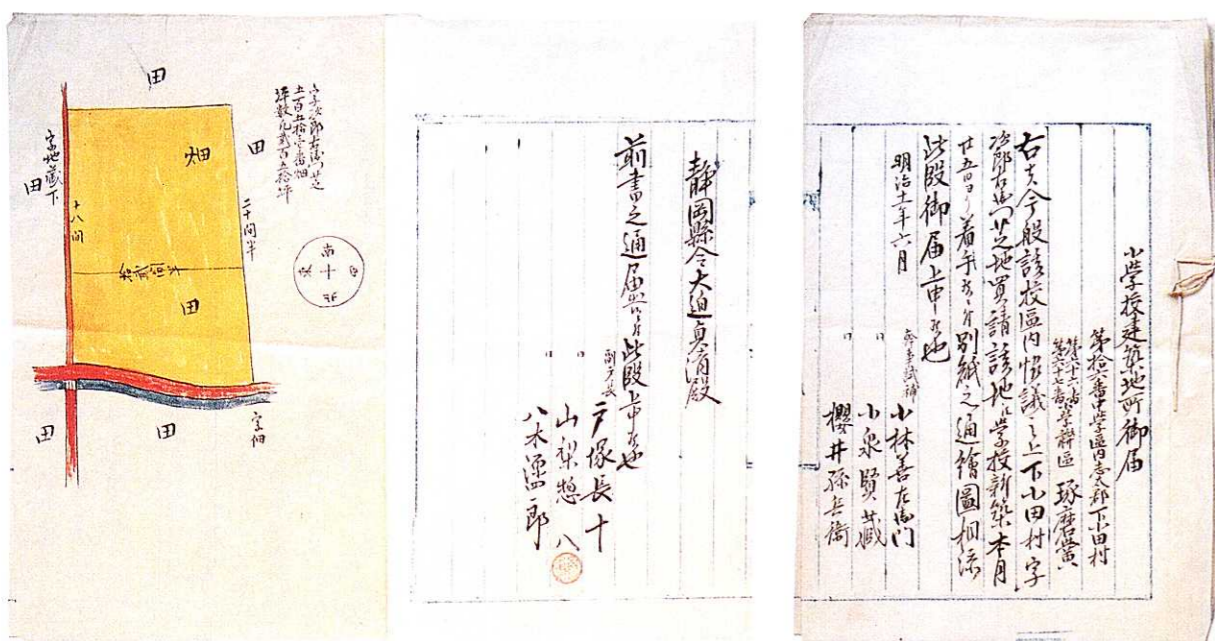
②改正地券 改正地券は、壬申地券と異なり、印刷された様式の中に地番、面積、地価、持主、さらには地租が記載された。それは、土地の所有者を表示するとともに、租税額をも示す機能を有したが、登記法の制定（1886年）、土地台帳規制の公布（1889年）によりその歴史的役割を終えた。

# 50 近代学校の成立

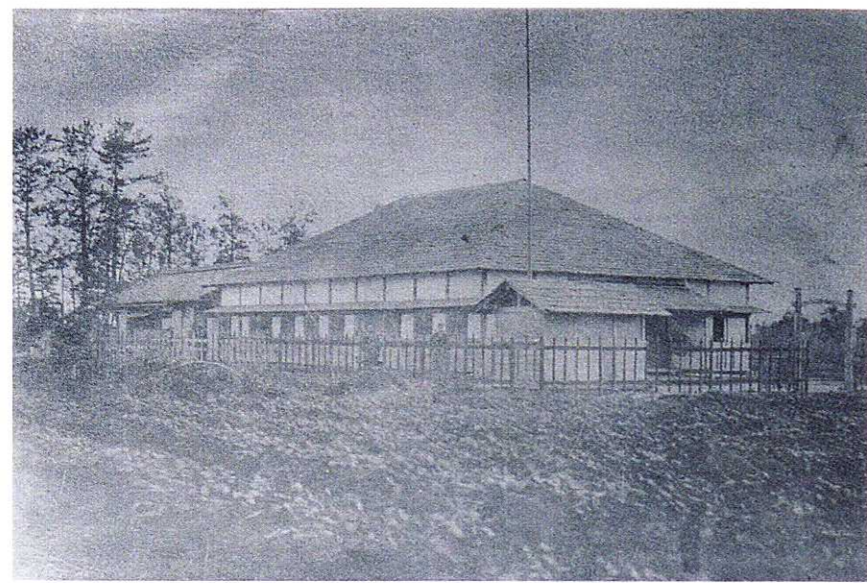
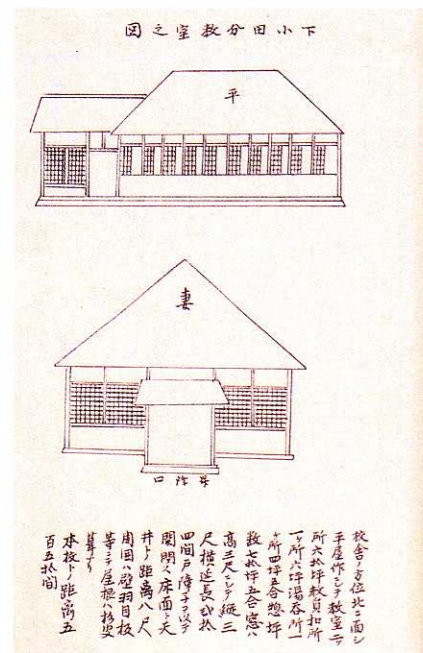
一八七二年（明治五）に「村に不学の戸なからしむ」という学制が頒布され、それまでの寺子屋的な教育から近代的な学校へと大きく転換した。政府の指示により各地に学校が設立され、子どもたちへの統一的な教育が実施されることになった。

焼津市域では、一八七四年（明治七）にはいるといくつかの村が連合して学校を設置し、教員を雇い、書籍や器具を購入した。校舎はまだ新築されず寺院などが使用されたが、村々や住民の経済的負担は重かった。教育は等級制が採用され、試験に合格すると級を進めることができた。就学率も女子を中心にあまり高くなかった。しだいに村々は校舎を新築しはじめ、焼津市域では遅くとも八〇年代半ばまでに建築を完了していった。

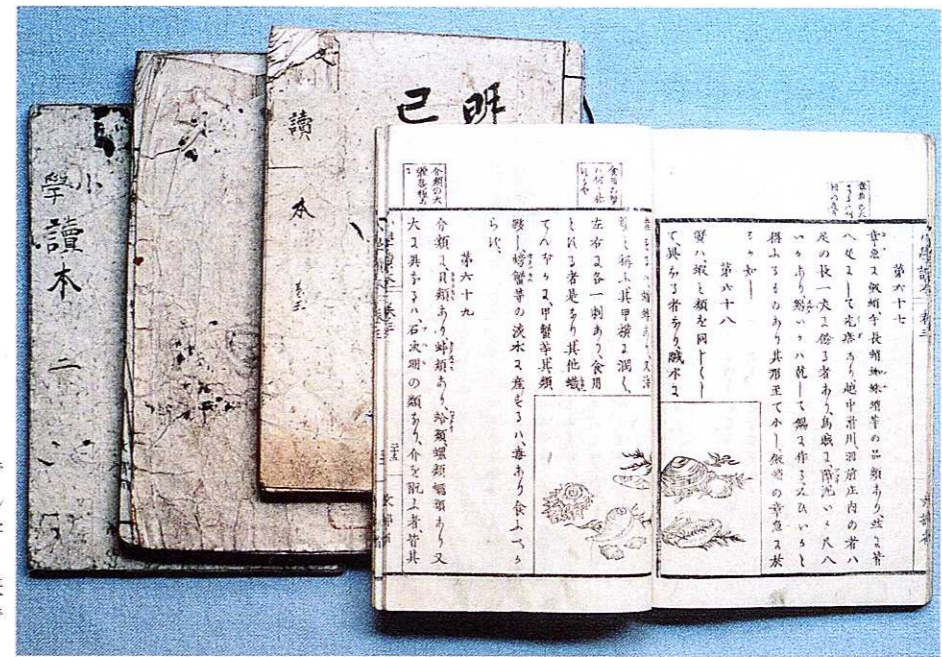
その後、数次におよぶ小学校令の発布、御真影下付を通じて戦前の学校教育体制の枠組みができた。一方、行政による就学督促の厳格化、各学校での就学率向上にむけた工夫や努力、女子の就学対策としての裁縫科設置、男女別学級編制が行われた結果、明治後半になると就学率は九〇%を越えていった。なお焼津村では、郡役所からの指示により男女別学校に編制したが、長続きはしなかった。



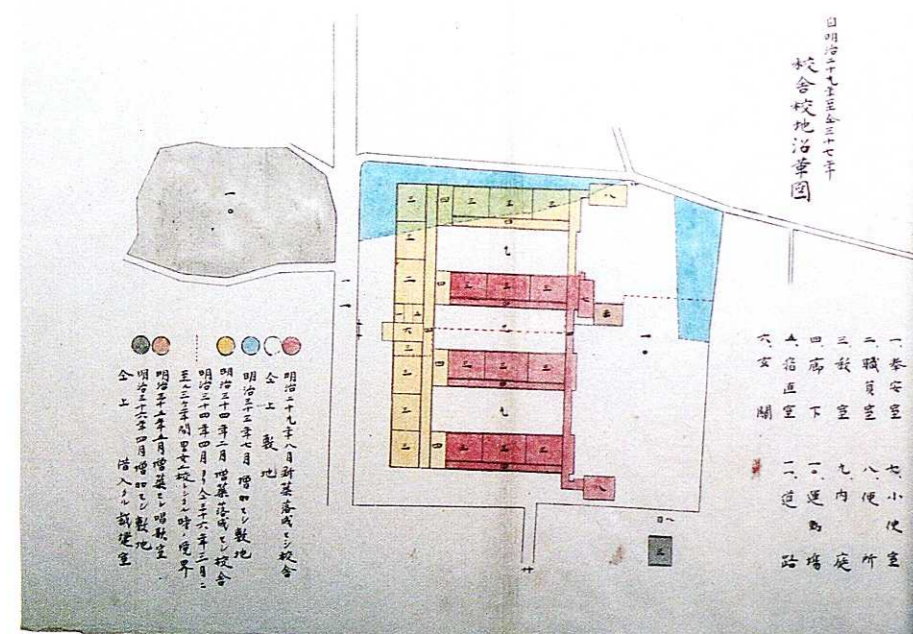
④ 小学校建築地所御届 琢磨費は1878年（明治11）、下小田村に校舎を新築した。建設費は総計403円16銭9厘余り、敷地代金は47円であった。区内からの寄付と集金、そして夫役による負担があった。



⑤ 琢磨費の校舎 建築された琢磨費の貴重な写真（⑤）と沿革誌に残された同校（⑥）の下小田分教室、和田尋常小学校の図面（⑥）である。



① 教科書 政府は小学校で使用する教科書の編さんを進めた。写真の『小学読本』は『地理初歩』『日本史略』などと並ぶ代表的なこの時期の教科書である。

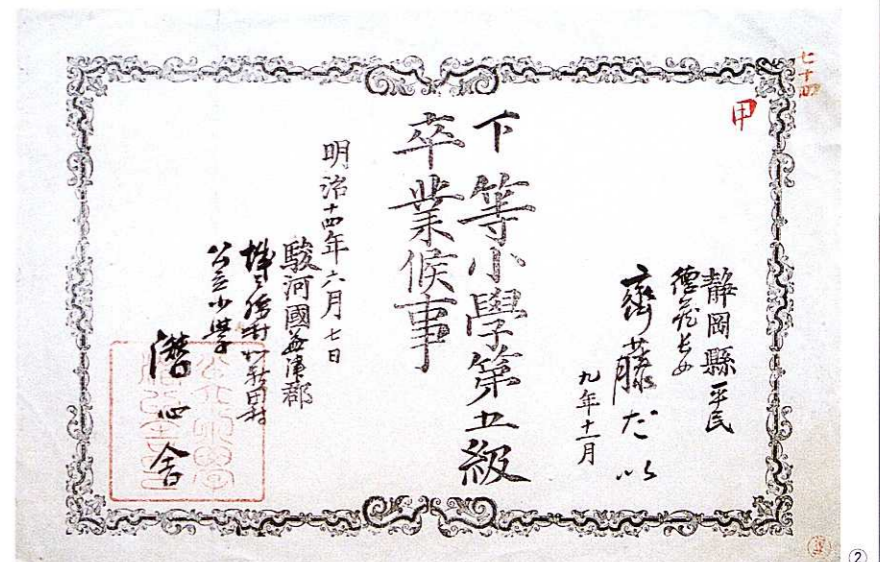


⑦ 男女別学級編制 1890年代末には、焼津地域の小学校でも男女別学級編制が登場してきた。ついで焼津村は1901年、村内の小学校を男女別に分けた。しかし、図中の-----が男女別に分けた学校の境界を示すように、実態は同じ敷地内に教室を別にする2つの学校という形であった。

③ 琢磨費における等級ごと生徒在籍数

	1878年		1879年		1880年	
	男	女	男	女	男	女
上等						
1級						
2級						
3級						
4級						
5級						
6級			5		8	
7級						
下等						
1級	2		3		3	
2級	4		8		9	
3級	7	1	8	4	6	4
4級	10		9	1	8	1
5級	14	2	8	1	7	1
6級	16	10	10	2	7	4
7級	28	9	10	5	8	3
8級						
計	81	22	61	13	56	13

\*旧桜井家文書「明治13年駿河国志太郡琢磨費学校区内学事統計表」ほかより作成。



②③ 卒業証書と等級別在籍数 小学校を上下二等に分け、それぞれに8級をおいた。下等8級から始め、級を進めるごとに卒業証書が渡された。琢磨費の例では、多くが下等小学に止まっており、上等に進むものは少なかった。②は潜心舎の卒業証書。

# 51 鉄道敷設—焼津藤枝間軌道線と東海道線

東海道線は当初、政府によって中山道（なかせんどう）を回るルートが構想された。それは一つに軍事的立場から、海外勢力の支配を受けにくいと考えられたからであった。その後の検討で、中山道の険阻な山道や隧道の開削など、工事費もかかることが懸念され、人口が多くて海浜と山村の産物の輸送に都合がよい東海道筋に改められ、一八八五年（明治一七）頃に本格的に着手された。しかし、具体的なコースを巡って各地の調整が必要であった。焼津周辺でも葛の細道など山地ルートも考えられたが、実際には石部から隧道を経由して旧焼津村に通じる海浜ルートが選定され、焼津の漁村が交通の要衝として浮上することになった。

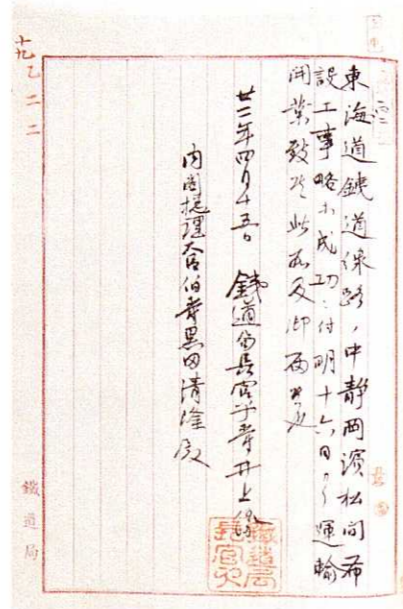
焼津は古くから沿岸・近海漁業に取り組み、一八八〇年代後半には城之腰・鯛ヶ島・北新田村の三地区の漁業者による水産組織が存在したが、それでも鉄道線の開通こそ、この地が水産業基地、遠洋漁業根拠地として発展することを約束した。

また、日本初の人車鉄道である焼津藤枝間の木道線が敷設された。当初は焼津から中泉方面への駿遠鉄道構想もあった。これらにより、茶などの農産物を焼津港などに出して、船による交易が目論まれた。しかし、実際にはこの構想は実現せず、結局藤相鉄道が藤枝—岡部間を結んだ。

③東海道線（当時は東海道鉄道と呼称）焼津駅舎



⑤大崩の東海道線 東海道線の敷設の当初計画では静岡町から岡部町経由で志太平野に走らせる考えもあったが、海岸線に決まり、トンネル開削により大崩を経由した。



④東海道線開通記事（『公文類聚』第十三編明治二十二年第四十九巻）

●焼津藤枝間木道試通 益津郡焼津停車場より藤枝町の舊大手口へ通する新道へ今回木道を敷き旅客及び荷物運搬の便利にせんと小川郷八郎氏が發起者となり過日來より工事中の所る去る二十一日に落成し一昨日車輪の試運転をなせしがまの木道馬車焼津停車場を發する東行線車に間に合ふ様藤枝を發し瀬戸川橋に中休所を置き時間藤枝より焼津まで二十五分間焼津より藤枝まで卅分間にて往復五拾五分の豫定なりといひ乗車賃藤枝より瀬戸川橋まで二錢瀬戸川橋より焼津まで二錢荷物の茶一擔（拾七貫目位）藤枝より焼津まで二錢の定めにて不日盛なる開通式を行ふといふ

●小銀行の大恐慌 近來銀行の恐慌と一種の流行物となり遠州周智郡なる大居銀行と近來殆んど其の實權を栗田氏の手に歸したる如くにて營業の休みたれを貸金付は督促返債せしめしが債主此の末如何になり行くかと内々騒ぎを醸め居る株主もある由

①静岡大務新聞（明治24. 7. 25） 焼津藤枝間の木道線が1891年7月21日に敷設完了したという報道記事。経路は焼津駅から藤枝大手までの新道であったと記されている。



⑥駿遠鉄道株式会社 株券

⑦駿遠鉄道構想は当初、焼津駅から磐田郡中泉に達する遠大なものであった。その後、挫折した。あらたに静岡鉄道駿遠線として発足した鉄道会社が全国最長距離をもって、第二次大戦後、新袋井まで開通することになった。



⑦駿遠鉄道発起趣意書（『鉄道省文書』）

藤枝焼津間軌道會社 時刻表 (明治二十七年四月廿一日)

藤枝發	瀬戸川發	貨金	焼津着	貨金
前七時四十分	七時五十二分	貳錢	八時七分	貳錢
十時九分	十時十九分	全	十時三十四分	全
正十二時	十二時十分	全	十二時廿五分	全
後午一時四十分	一時五十六分	全	二時十一分	全
四時十一分	四時二十一分	全	四時三十六分	全
七時四十七分	七時五十七分	全	八時十二分	全
八時五十分	九時	全	九時十五分	全
燒津發	瀬戸川發	貨金	藤枝着	貨金
六時三十一分	六時五十三分	貳錢	七時一分	貳錢
九時	九時二十二分	全	九時三十分	全
十二時五十八分	一時十分	全	一時十八分	全
二時二十五分	二時四十七分	全	二時五十五分	全
四時二分	四時二十四分	全	四時三十二分	全
六時五十一分	七時十三分	全	七時二十一分	全
九時二十七分	九時四十九分	全	九時五十七分	全

右定刻ノ外臨時發車スルコトアルヘシ  
貨車ハ毎日數回運轉ス

②焼津藤枝間軌道會社 時刻表 客車を人が引っ張ってゆくという人力に依存したこの路線は木道で、焼津藤枝間をほぼ30分で運行し、料金2錢、1日7往復であった。

近代国家として歩み始めた日本は、まもなく日清戦争（一八九四～五年）、日露戦争（一九〇四～五年）という対外戦争を相次いで経験した。こうして第二次世界大戦まで至る戦争の歴史が始まった。

日露戦争は、日清戦争以上に地域住民の生命・生活に対して多大な犠牲を強いる戦争であった。たとえば焼津町の場合、日露戦争に従軍した住民は陸海軍合わせて二五三名を数え、うち戦病死者は二五名であった。これは七戸につき一戸の割合で家族を戦地に送り出したことを意味している。

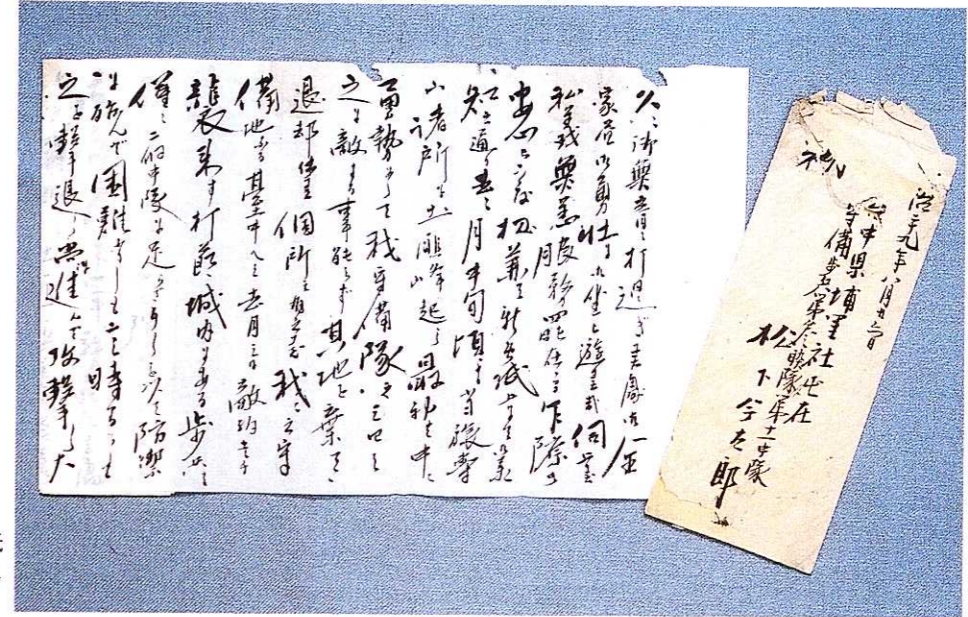
働き手を戦地にとられた家族のなかにはただちに生活に困窮するところもあった。しかし、みずから引き起こした戦争でありながら、国家は家族の面倒をみてくれるわけではなかった。それはおもに地域住民の相互扶助にゆだねられた。すなわち、各町村に「奨兵会」という組織が作られ、住民からの寄付金をもとに困窮家族への救護（役務・金銭の提供）や出征軍人への援護などの事業が行われた。

他方、戦争は住民に熱狂と歓喜も与えた。焼津駅頭を通過する出征兵士への「犒軍」、先勝を祝う提灯行列、凱旋将兵の歓迎行事。そこに横溢する国民の熱気なくして戦争（日露戦争は世界最初の「総力戦」）を継続することはもはや困難であった。

③焼津町の日露戦争

西暦	月日	焼津町の動向	全国の動向
1904	2/14	本日以後、奨兵会員より焼津駅を通過する輸送列車に饗別の送辞。	2/10ロシアに宣戦布告（日露戦争の始まり）。
	2/21	焼津神社にて戦勝祈願祭を行う。	2/23日韓議定書調印（日本、韓国の領土保全を名目に同国内での軍事行動の自由を確保）。
	3/2	付近8ヵ町村合同し、交代で犒軍（饗別の送辞）。	
	3/26	静岡歩兵第34連隊送迎に未曾有の賑わい。	
	5/28	戦捷祝賀のため小川村の一部と連合し提灯行列を催し約3,000人参加。	5/1第1軍、鴨緑江を渡河（5/5第2軍、遼東半島上陸開始）。
	6/3	歩兵第34連隊補充員将校以下163名出征通過につき犒軍。	
	7/3	歩兵第34連隊補充員将校2名下士卒190名出征通過につき連合犒軍。	
	7/6	満州軍総司令部通過につきカツオ缶詰20個を贈呈。	
	7/24	ロシア軍艦御前崎沖の通過に対し沿海監視と警戒の通報。	7/20ウラジオストック艦隊、津軽海峡を抜け、太平洋岸で汽船・帆船5隻など撃沈（7/30同艦隊、帰還）。
	7/27	ロシア軍艦御前崎沖の通過に対し警察官・町吏各1名、浜当日の虚空蔵山頂にて見張りに立つ。	
	8/6	ロシア軍艦の津軽海峡通過をもって監視を解く。	
	8/15	後備歩兵第34連隊出征通過につき犒軍。 旅順ロシア軍艦が日本軍の砲撃に遭い離散、沿海警戒の見張りを行う。	8/10ロシア艦隊、旅順を出撃し、黄海で連合艦隊と海戦（黄海海戦）。
8/23	ロシア軍艦の撃沈報告をもって監視を解く。	8/19第3軍の旅順第1回攻撃開始（～8/24、日本軍の死傷者15,860人）	
8/24	歩兵34連隊補充員将校以下163名出征通過につき犒軍。		
9/10	歩兵34連隊補充員将校5名下士卒541名出征通過につき犒軍。	9/4遼陽の会戦（日本軍の死傷23,533人）。	
9/20	歩兵第34連隊補充員出征通過。	10/10沙河の会戦（～10/20日本軍の死傷20,497人）。	
10/22	歩兵第34連隊補充員出征通過。		
11/26	静岡野戦補充兵将校以下550名通過。	11/26第3軍、第3回旅順総攻撃を開始（12/5二〇三高地を占領、日本軍の死傷16,935人）。	
12/23	帝国中央通信社従軍記者が焼津北劇場朝日座において戦地実況を講話。		
1905	1/15	旅順要塞歓楽祝賀のため小学校生徒1,600余名の旗行列を行う。	1/13日本軍、旅順入城。
	1/28	歩兵第34連隊補充員将校200余名通過。	
	3/17	歩兵第34連隊補充員将校400余名通過。	3/1日本軍、奉天に向け総攻撃開始（3/10奉天占領、日本軍の死傷70,028人）。
	4/1	焼津神社にて戦捷祝賀・出征者の健康を祈る祭典を行う。	
	4/12	歩兵第34連隊補充員将校400余名通過。 シンガポール沖を通過するロシア軍艦・船舶を発見した場合、役場に届けるように訓令。	
	4/15	ロシア軍艦のシンガポール海峡通過につき、付近を航行する船舶に対し警戒通報。	
	4/18	ロシア軍艦のシンガポール海峡通過につき、海面監視を行う。	
	4/19	浜当日の監視所にて海面監視を開始。	
	4/20	海上にて石炭糧食等の布袋空き箱等の漂流物を発見した場合は役場に届けるように指示。	
	5/26	海上にて敵艦隊を発見した場合は東京海軍まで電信連絡をすることを指示。	
	5/27	当該業者に対し対馬海峡への航行禁止を指示。	5/27連合艦隊、日本海でロシア・バルチック艦隊を破る（日本海海戦）。
	5/30	対馬海峡への航行禁止を解除。	
	6/1	焼津神社にて海軍大戦捷を祝するための祭典を行う。	
	6/2	浜当日の監視所を廃止。	
	6/-	愛国婦人会静岡支部長亀井眞洲子の発起により慰問袋を募集。	
	7/22	歩兵第34連隊補充員将校以下400名出征通過につき犒軍。	
	8/21	歩兵第34連隊補充員将校以下145名出征通過につき犒軍。	8/12第2回日英同盟協約調印（即日実施）。 9/5日露講和条約調印（ポーツマス条約）。 11/17第2次日韓協約（韓国外交権を接収）。
	1906	12/7	満州軍総司令部凱旋に対し愛国婦人会員の湯茶のもてなしと歓迎文。
12/8		第一軍司令部凱旋に対し愛国婦人会員の湯茶のもてなしと歓迎文。 平和恢復凱旋軍に歓迎文。	
1/11		第二軍司令部凱旋に対し愛国婦人会員の湯茶のもてなしと歓迎文。	
1/13		第三軍司令部凱旋に対し愛国婦人会員の湯茶のもてなしと歓迎文。	
1/16		第四軍司令部凱旋に対し愛国婦人会員の湯茶のもてなしと歓迎文。	
1/17		歩兵第34連隊兵員の凱旋に歓迎の賑わい。	
1/19		鴨緑江軍司令部凱旋に対し愛国婦人会員の湯茶のもてなしと歓迎文。	
3/10	新屋海岸において戦病死者の為の神仏混合の招魂祭を行う。		
4/14	新屋海浜にて慰労会を開催、感謝状を全員に贈呈。		
4/15	救護その他事業に従事した町会議員他68名を招待、慰労会開催。		

\*『焼津町沿革誌』、岩波書店『近代日本総合年表』第3版より作成。  
③住民の日常生活のなかで頻りに繰り返される軍人援護・家族救護活動。



①台湾出征兵士の手紙  
戦闘の様態を詳細に書き記している。



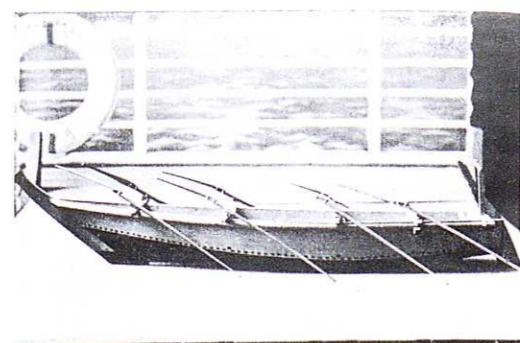
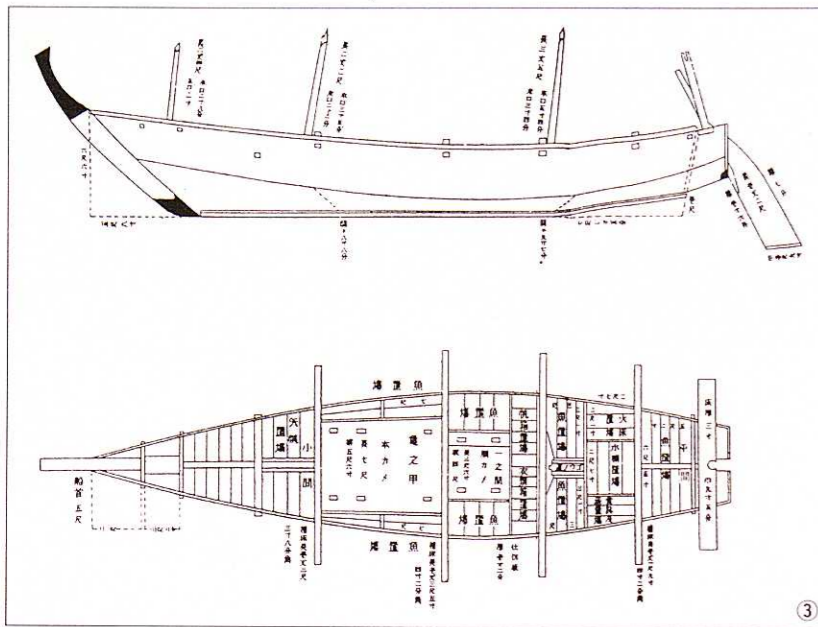
②虚空蔵山（当目山）  
日露戦争の際、虚空蔵山頂からロシア艦船に対する監視行動が行われた。

明治期の焼津カツオ漁業の企業的展開は、(東)東海遠洋漁業株式会社(一九〇七年設立)、(有)有限責任焼津町生産組合(一九〇八年設立)の二船主法人によって推進された。両者の経営組織を特徴付けたのは、①在来の生産組織である船中(船元と船子の共同組織)と漁船の共有関係を構築したこと、②資産としての漁船の管理を船主法人が、漁撈手段としての漁船の管理(運航・操業)を船元が分担したことである。このことにより、動力漁船の取得と操業管理を効率よく実施することができた。

これと並行して、焼津には漁獲物の卸売市場会社や地元銀行が設立され、二船主法人の経営を後押しした。

さらに、漁業生産の伸長に伴い、製氷・運送・倉庫・肥料等の会社も設立され、近代漁業の産業的基盤を確かなものにした。

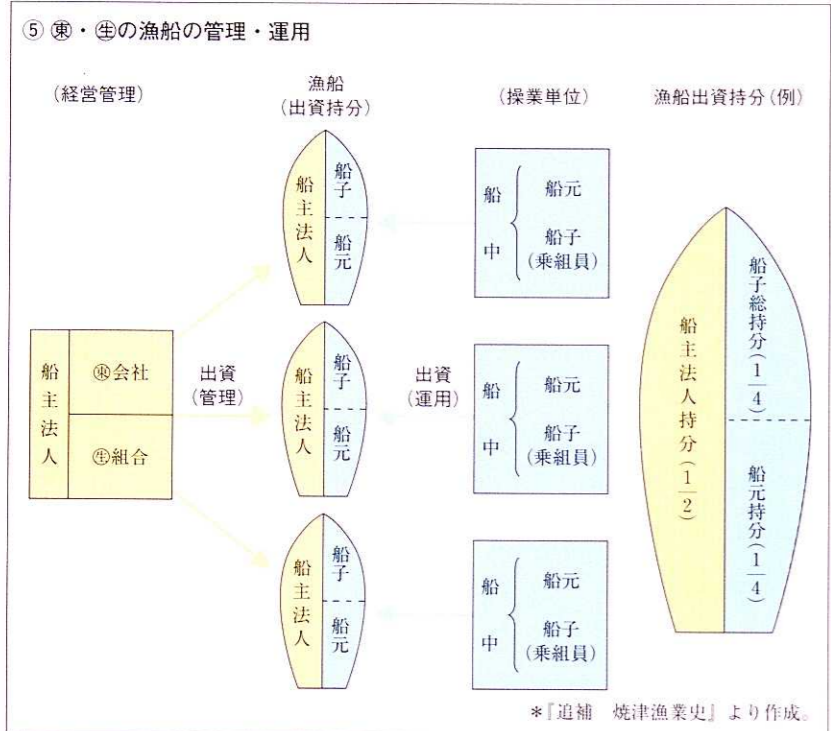
このことが技術面での漁船の動力化、大型化を推進することとなった。試験船富士丸(二五ト)の成功を契機として建造された動力付カツオ漁船は第一期船(一九〇八年)の二三ト型(和船型)から第三期船(一九一〇年)の三二ト型(西洋型)へと増トンした。これによって、操業海域は大島近海から八丈島沖・銭洲へと拡大した。



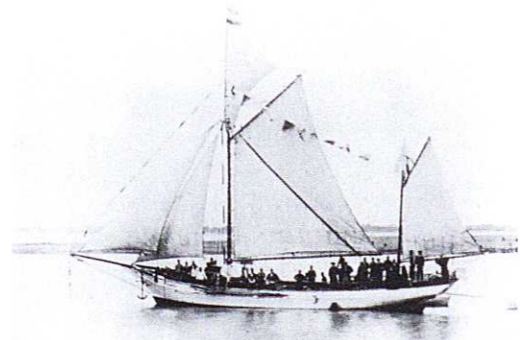
② 模型と静岡県鯉釣船図 実物を模して製作された八丁櫓の模型船(②)と農商務省水産調査所の1896年(明治29)の実測図(③)。

③ 模型と静岡県鯉釣船図 実物を模して製作された八丁櫓の模型船(②)と農商務省水産調査所の1896年(明治29)の実測図(③)。

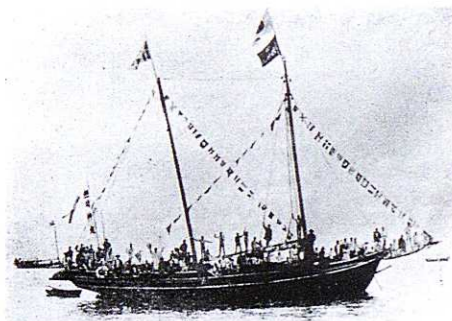
① 日本かつお・まぐろ漁業信用基金協会『かつお・まぐろ漁業の発展と金融・保証』より転載。



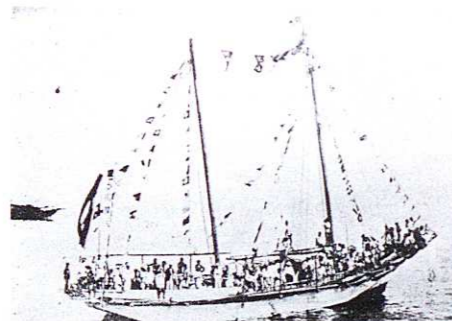
⑤ 漁船は船主法人と船中(船元と船子集団)が共有し、資産としての漁船の管理は船主法人が担当し、その運用(漁撈)は船中に委ねるという経営モデルが定着した。



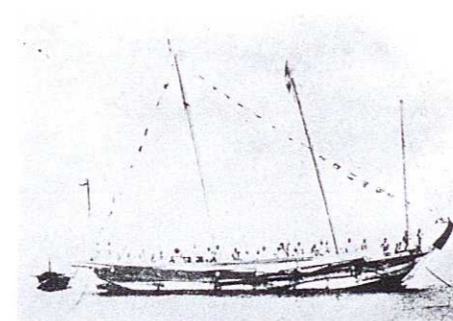
④ 富士丸 静岡県水産試験場の試験船。1906年(明治39)動力船によるカツオ釣試験操業にはじめて成功した船。



発動機船第3期船 明神丸(31.72ト)

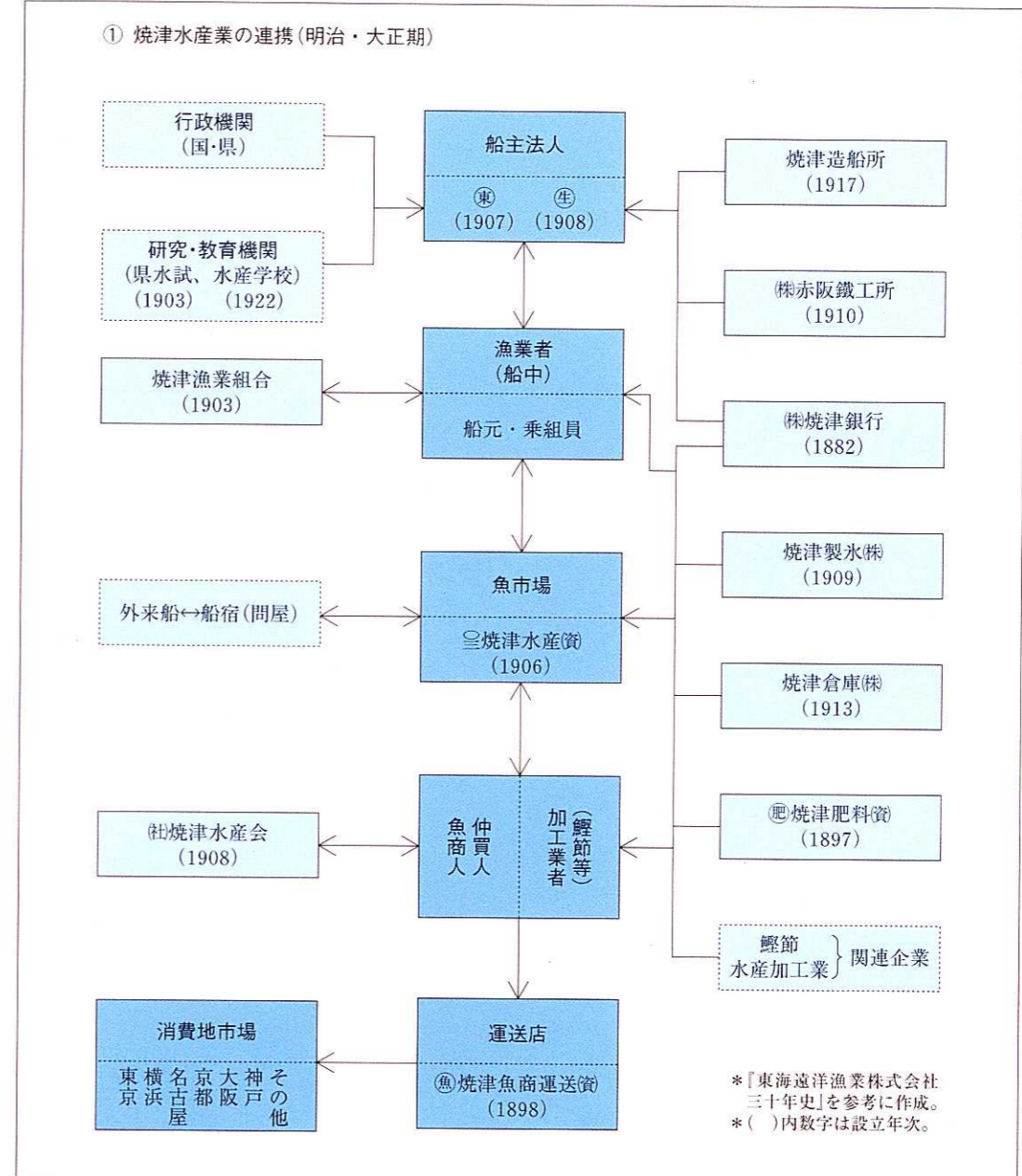


発動機船第2期船 川岸丸(27.48ト)



発動機船第1期船 高根丸(23.44ト)

⑥ 初期の動力カツオ釣漁船 和船型動力船から西洋型動力船への転換がいち早く図られた。  
\*焼津漁業協同組合『焼津の漁業と漁業協同組合の概況』より転載。



① 船主法人の設立と動力漁船によるカツオ漁業の生産力増強に対して、水産業関連の加工・流通等のほか、これを補完する関連産業が起った。これらの産業との連携が近代漁業へ脱皮するカツオ漁業の基礎を支えた。

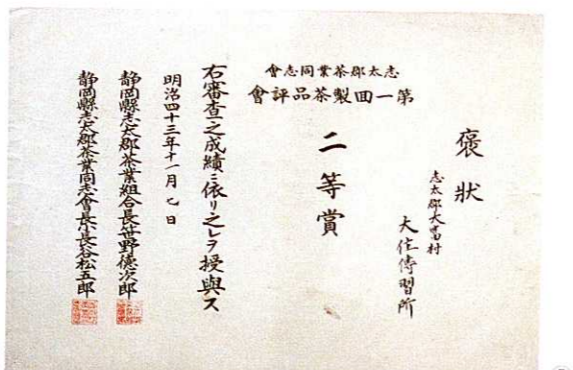
明治はじめ焼津地域の村々では、米を中心として、その他の自家用雑穀や蔬菜類、そして商品作物の綿・茶・藍・菜種などが栽培されていた。こうした在来の農業に対し、政府は各地に農談会や農事会を組織し、各種共進会を開催、農事改良につとめた。一八八〇年代末になると各地に農会が設立された。大富村農会は一八八八年（明治二二）一月の設立だが、農業上の経験知識を交換しもつぱら該業の改良進歩をはかり「殖産の途」を開くことを目的とした。

これらの農会や同業組合の指導のもと明治後半になると、稲作では塩水選、共同苗代、牛馬耕、害虫駆除などに取り組み、作物の増収を実現していった。同時に製茶、養蚕、柑橘や梨などの栽培面積や収穫も増加し、つぎの大正期にかけてさらに発展していった。とくに温州ミカンや夏ミカン、ネーブルオレンジなどの柑橘類は、県や郡の奨励策、そして庵原郡興津町に農商務省農事試験場園芸部が設置されたこともあって、急速に普及した。

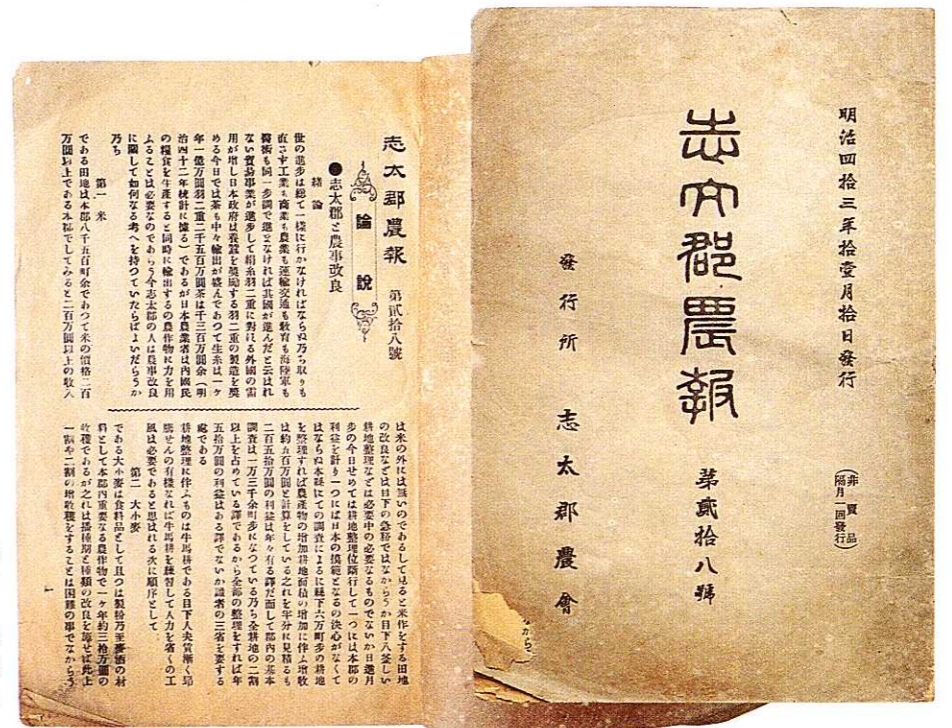
一方、耕地整理事業が一八九九年の耕地整理法、一九〇六年の耕地整理及土地改良奨励規則の制定を契機として実施された。焼津地域では一九〇三年に豊田村で郡下ではじめての耕地整理が行われ、ついで各地に拡大していった。



⑥温州蜜柑出荷用引き札 明治後半から大正期にかけて県下では柑橘業が急速に発達した。焼津地域でも東益津を中心に温州ミカンの栽培面積が拡大し収穫量が増加した。剪定技術が改良され、病虫害対策としてボルドー液が使用されはじめた。



④⑤農業の発達 米穀や茶業、養蚕、柑橘などに同業組合が作られるとともに、盛んに品評会や共進会が開催された。そのため焼津地域でも製茶業や柑橘業などが発達していった。④は茶業に関する組合員証、⑤は製茶品評会の褒状である。



①志太郡農報 県や郡、そして村に農会が組織され、農事改良にむけた動きが活発化した。県農会や郡農会では会報を発行し、新しい知識と技術の積極的な普及につとめた。



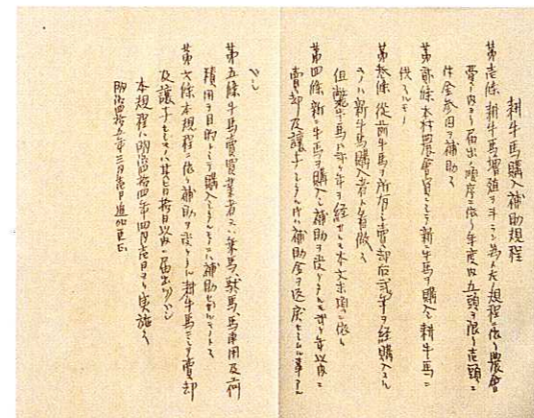
⑧現在のミカン畑 (焼津市吉津)



⑦現在の茶畑 (焼津市坂本)



②③牛馬耕 耕地整理が進み労力の不足を補うため牛馬耕が登場してきた。農会も競犁会や補助金を通じて奨励した(③)。②は豊田村東部小土農会による「紫雲英田共同馬耕之実況」である。



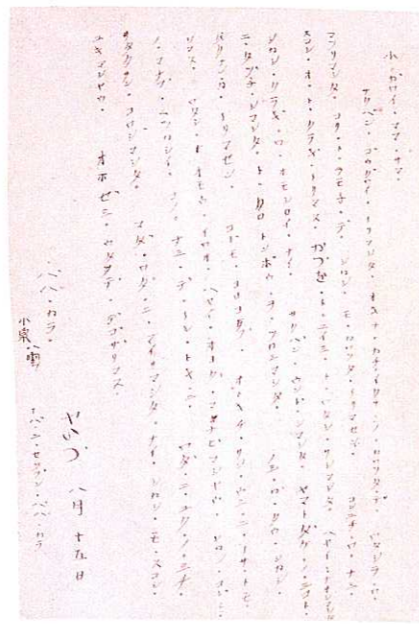


# 小泉八雲の焼津

当時東京帝国大学講師であった文人ラフカディオ・ハーン、日本名小泉八雲が、一八九七年（明治三〇）夏から一九〇四年までに六回、子どもと書生を連れて一夏の保養のため来焼したのは、知人田村豊久の紹介と八雲の好みに合う深い海と好人物の魚商山口乙吉との出会いによる奇縁であった。開けつびろげでさっぱりとした典型的焼津っ子乙吉は八雲と気が合い、「先生サマ」と呼んで親身な世話をした。漁師町の人々はよく散歩をしながら海で泳いだ八雲に親しみ、八雲は「それが欠点となるほど正直な」土地の人々を愛した。

彼の麗筆による焼津取材の主な作品は、「焼津にて」、「乙吉のだるま」、「漂流」、「海辺」、「夜光幻想」などで、最高の作品が含まれる。旧日本の心の内面に立ち入って、その素朴な美しさの面影を書き残したこの帰化人作家は、後世に語り継ぐべき、真に顕彰に値する人であった。

大正末期、早くも焼津町青年団による追慕・顕彰運動が起こったが、会を組織しての活動は太平洋戦争をはさみ消長があった。八雲の声価が比較文化的に高まるにつれ、顕彰会活動は年々盛んとなり、焼津市はその文化的国際交流的な意義を評価して、節目ごとに記念事業を行った。今日では図書館脇に八雲記念館が建設されるに至った。



⑨八雲のセツ宛書簡（明治37. 8. 15） 片言のようだが八雲の真情をよく伝える。



⑩風詠の地の石碑と案内板 八雲がよく散歩したコースの一角。新屋の新川橋近く。1925年（大正14）焼津町青年団建立。（焼津市新屋）



⑪焼津駅前の記念碑 1966年（昭和41）8月建立。題字は当時の市長長谷川正孝書、レリーフ胸像は江口忠作。「焼津にて」の冒頭の一節が刻まれている。（焼津市栄町）



①晩年の小泉八雲



②山口乙吉（1902年） 陽気で善良な人柄を「神様のような仁です」と八雲は称えた。



③明治村に復元した小泉八雲滞在の家 八雲はこの家の2階に滞在。1949年（昭和24）、静岡県史蹟に指定。1965年（昭和43）、家主天野庄平が愛知県犬山市の明治村に寄贈した。



⑫八雲生誕百年祭 1950年（昭和25）8月10～11日、町をあげて行われた。



⑬小泉八雲顕彰会誌 小泉家や熱心な研究家の寄稿に支えられ、焼津と八雲を内外に広めた。



⑭八雲没後百年記念式典であいさつする八雲の孫、小泉時氏



⑮新設の焼津小泉八雲記念館 八雲直筆の書簡・草稿断片・遺稿や遺品、また小泉家に伝わる掛軸・半襟筆筒等、および初版本その他を収蔵・展示。（焼津市三ヶ名）



④キセル

八雲は煙草好きで、来日後はキセルを使い日本煙草（きざみ煙草）を喫した。キセルは80本以上収集していたが、これは焼津で使ったもの。



⑤愛用の望遠鏡

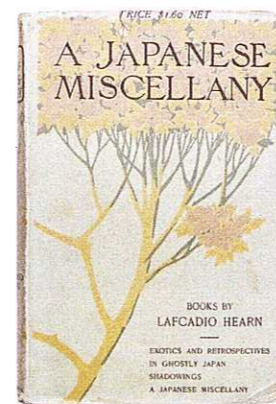
左目は失明、右目は強度近視の八雲にとって重宝なものであった。



⑥葉巻の箱 煙草入れとして使ったもの。



⑦『霊の日本』初版本（1899年）「焼津にて」所収。



⑧『日本雑録』初版本（1901年）「乙吉のだるま」「漂流」「海辺」所収。

一九一八年(大正七)七月、シベリア出兵問題等もあり、米価が高騰して米市場が大混乱した。浜松市における一等米一升の小売価格の推移は、八月五日三八・五錢、六日四〇・五錢、七日四二・五錢、八日四四錢と日毎に暴騰が続いた。

富山県下で七月下旬に始まった米騒動は、静岡県内にも八月中旬より広がった。静岡市は一三日、浜松市では一四、一五日に米騒動が起きた。

焼津町の米騒動は、八月一日に起きた。群衆数百人が焼津尋常小学校に午後七時頃参集し、町内の米穀商をつぎつぎに襲い米の廉売と寄付金を強要した。各米穀商は暴徒化した群衆に対して、寄付金や米廉売を約束した。群衆は同日午後一時過ぎに警察隊に食い止められ、翌一六日午前一時頃に解散した。襲われた米穀商七軒の被害は、総額七五七円であった。

一六日午後八時頃には、静岡第三四連隊歩兵三〇人が列車で焼津駅に到着し警戒に当たった。焼津町長は在郷軍人分会にも警戒を依頼し、分会員三二〇人が召集されて木銃を携行し歩哨に立ち、八日間にわたり警戒についた。青年団五〇人が在郷軍人分会に協力し警戒に当たった。  
米騒動の結果、焼津町・小川村役場では、貧民に対して八月中旬より救済米の廉売を開始した。



③米騒動後の堰区(小川新町)廉売所 焼津町・小川村では、8月中旬より米の廉売を始めた。焼津町では、極貧層に対し1人当たり内外米各2合で、1升につき内地米20錢、外米15錢で廉売した。

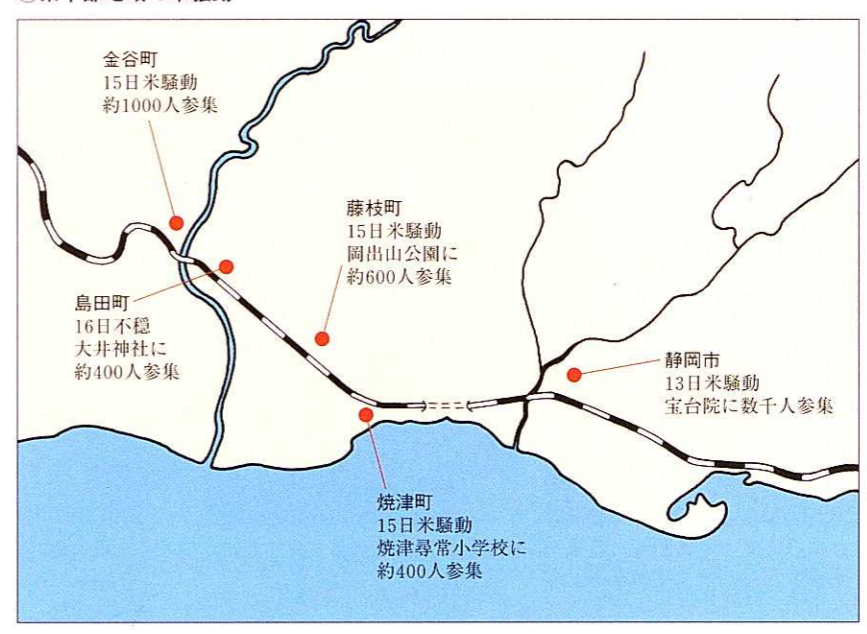


①焼津町の米騒動  
『静岡民友新聞』大正7.8.24) 米騒動の検挙者は、職人等38人であった。静岡地方裁判所は12月23日、被告38人に対して懲役刑と罰金の判決を下した。

小川村沿革資料 三  
遷居を期し、土著の移住者を中心として、遷居地を定め、その後、民衆の移住は、次第に進んで、同村の人口は、次第に増加して、昭和十三年、小川村に改称された。...

④小川村米騒動記録(「小川村沿革資料」) 小川村役場は8月下旬に5日間、9月に21日間の米廉売を行った。

②県中部地域の米騒動



②県下の米騒動は、静岡市や浜松市など2市17町8カ村で起きた。米騒動は15日に、浜松市・見付町・掛川町・江尻町・大宮町等で起きている。

静岡縣志太郎西益津村 榎田喜三郎  
大正七年米價騰貴之際 救済爲金貳拾圓寄附候 段奇特二付爲其賞木杯 壹箇下賜候事  
大正七年十一月八日 静岡縣知事正登勲等赤池濃

⑤県知事より寄付金者へ感謝状 焼津町と各村では米騒動後に、貧民救済の資金募集を行った。米穀商や有力者から集まった寄付金は、米廉売の費用となった。

大正期の地方自治は大きな変化を蒙った。とくに町村財政の規模が飛躍的に拡大したことが注目される。たとえば焼津町の場合、その財政規模は明治期に比べると一〇倍前後にまで急増した。

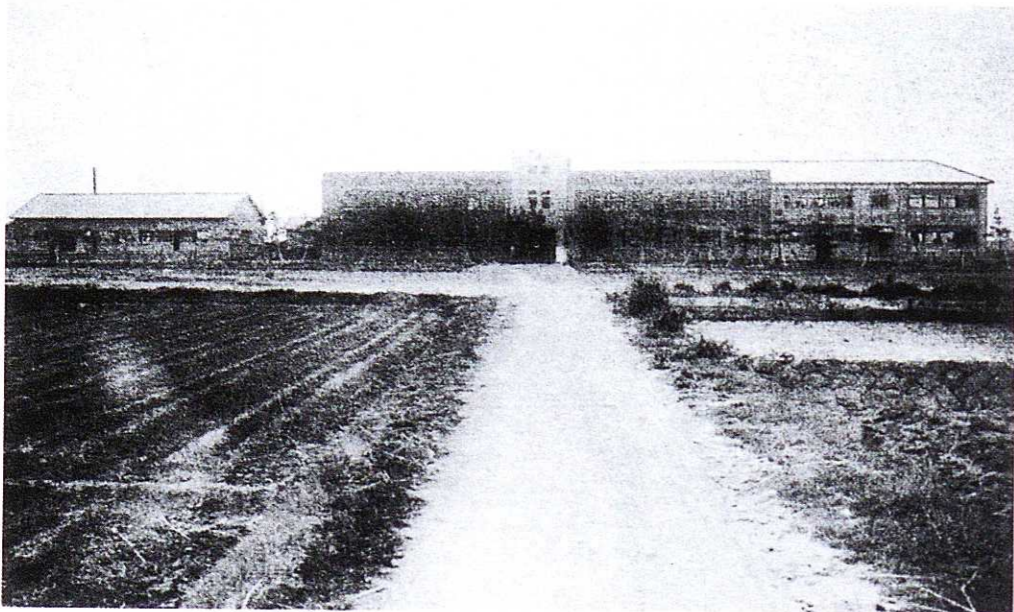
歳入面では、依然として町村税が町村財政を支える重要な柱であり、かつその増加傾向も顕著であった。しかし、大正期に入るとそれも不足をきたし、あらたに国や県からの財政補助や公債・借入金などの比重が高まっていった。

歳出面では、教育費が明治期以来町村の大きな財政負担となっていたが、大正期にはその絶対額の増加ぶりが目につく。また、土木費が恒常化するという傾向も認められる。さらに社会政策的経費（救護費、公園費、町営住宅費など）があらたに登場したのもこの時期の特徴であった。

この時期、各地で道路開削工事、治水工事などが県費補助などを受けて活発に推進されたことも注目すべきである。当時の政治家（山口忠五郎、海野数馬など）は、これら土木工事をめぐる利権の獲得に動き、《地元の開発要求↓政治家への陳情↓政治家から県への斡旋↓政治家による土木工事の請負と地元民の支持獲得》という利権構造をしっかりと作り上げていたのである。



③岡部街道 大正期、県道の拡張工事が各地で活発に行われた。ここ県道焼津岡部線でも数次にわたり拡張工事が行われた。



④焼津水産学校遠景 1922年（大正11）に設立された焼津町立焼津水産学校（乙種）は、25年、静岡県に移管され、甲種昇格のうえ静岡県立焼津水産学校と改称された。その際、焼津町は、既存の設備のほかに多額の現金と物品の寄付を義務付けられた。

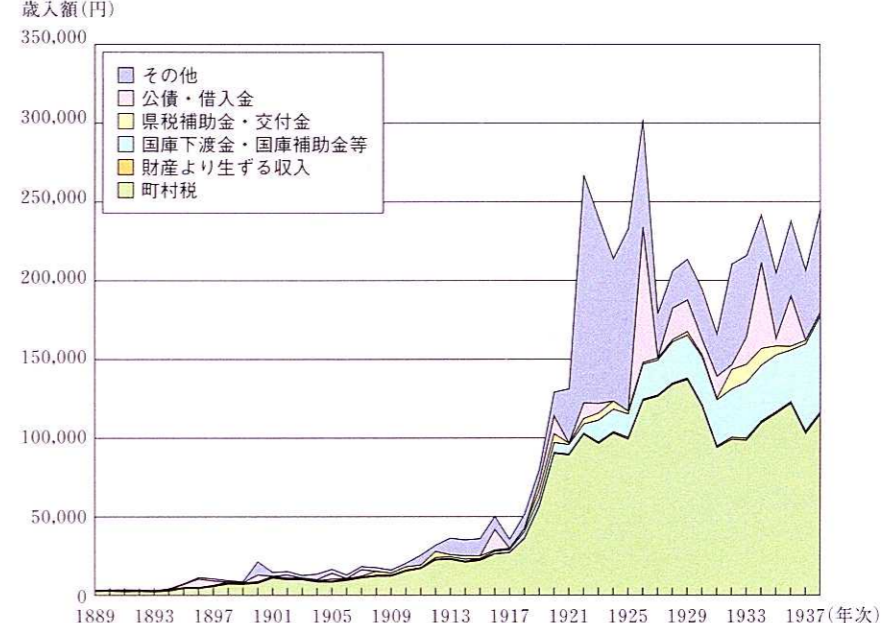


⑥朝比奈川 朝比奈川は、葉梨川とともに瀬戸川支川であり、古くから難治の川として知られていた。ここに水害予防組合が組織され、1922年度から31年度までの10年間に工費70万円（県補助金35万円）をもって改修工事が行われた。



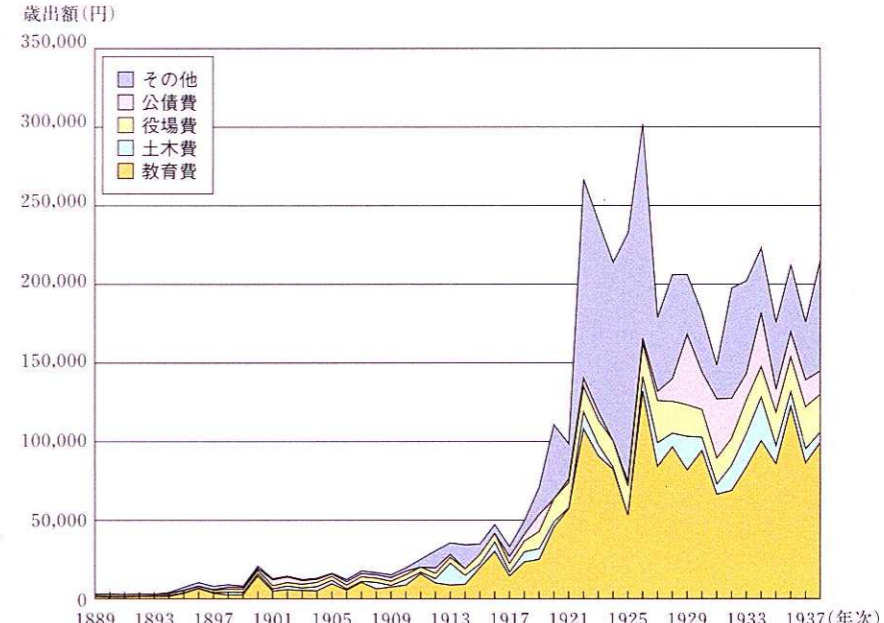
⑤海野数馬肖像 志太郡葉梨村出身の政治家。1919年（大正8）憲政会少壮団長、23年県議初当選、28年衆議院議員初当選（3回当選）、「徹頭徹尾在野の政治家」などと評された。（青島鋼太郎『志太地区人物誌』より転載）

①焼津町財政歳入構造の変化（1889～1937年）



①焼津町の場合、1920年代以降、町村税だけでは歳入を賄えないというのが常態化しているのがわかる。なお、「その他」のなかでは「寄付金」が大きな比重を占めている。

②焼津町財政歳出構造の変化（1889～1937年）

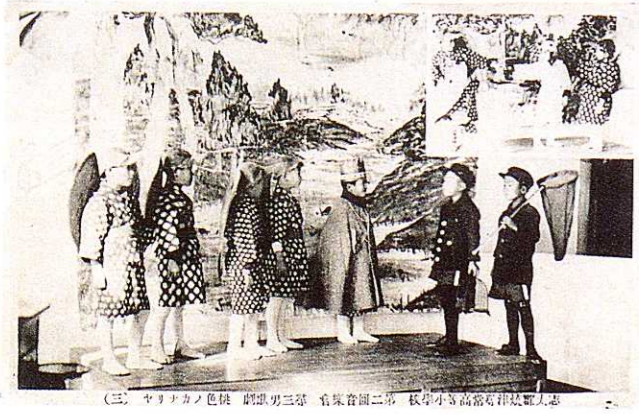


②教育費は一環して大きな負担であったが、1920年代以降になると、土木費負担が恒常化するなど新しい特徴がみられるようになる。

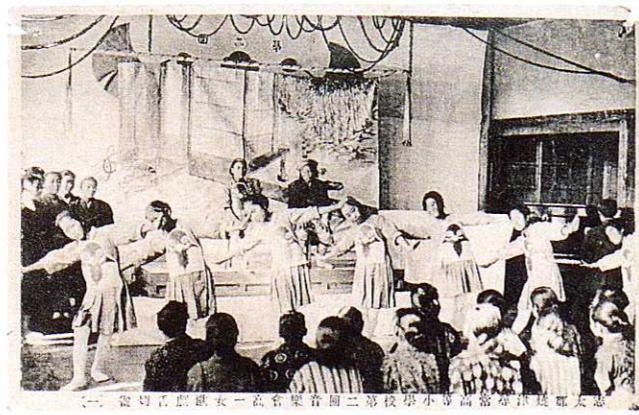
大正期、学校には児童文庫をはじめとした図書館施設が設けられ、学校新聞によって児童への知識拡大が図られた。また国語（綴方、読方）を中心に新しい理論と実践が提起され、子どもたちを基本におく授業や教育が活発に展開された。一方、体操やスポーツが奨励されるとともに衛生に留意することが求められた。

焼津地域の各小学校では一九二〇年代に活発な綴方教育が展開された。静岡師範学校竹沢義夫など著名な実践家・理論家を招いて綴方に関する研究会を開催した。一方、生徒たちの進学熱も高まり、中等学校への受験競争が激化した。小学校では試験準備のための特別指導・予習教育が繰り返され、その弊害が表面化した。そのため政府は特別指導を禁止し、さらには入学試験を廃止した。

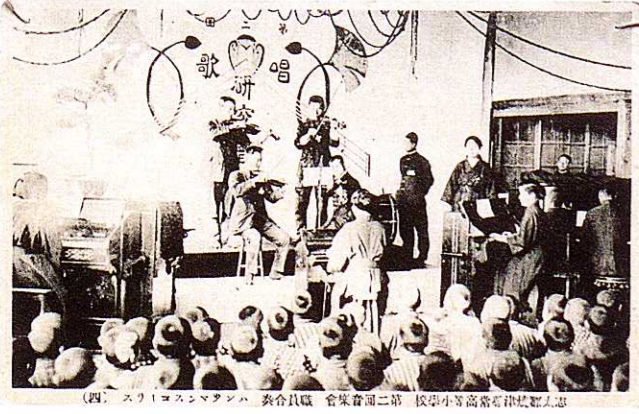
この時期、遠洋漁業に牽引されながら焼津町の水産業は発展した。これを背景として県下ではじめての水産学校設立を求める声が大きくなり、一九二二年（大正一一）三月一〇日、町立焼津水産学校が設立され、二五年には県立に移管された。また、女子教育が拡大するなか一九〇二年（明治三五）七月一日、松永いしによって私塾松永裁縫教授所が開設された。その後二四年三月三日、静岡県焼津高等裁縫女学校と組織変更した。



(三) ヤリカノ色徒 劇団男三第 音楽會二第 焼津高等小高常常津焼津

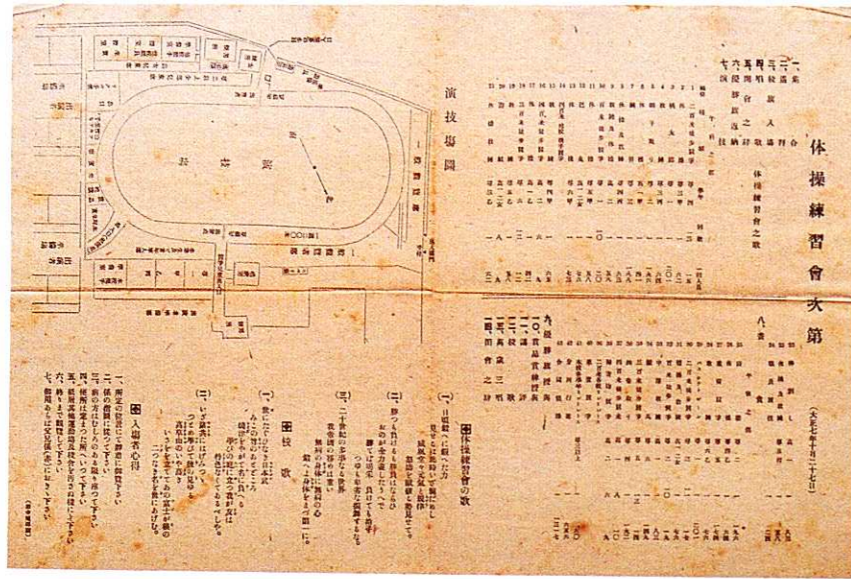


(二) 焼津高等小高常常津焼津



(四) スプリングマンの 奏合員員 音楽會二第 焼津高等小高常常津焼津

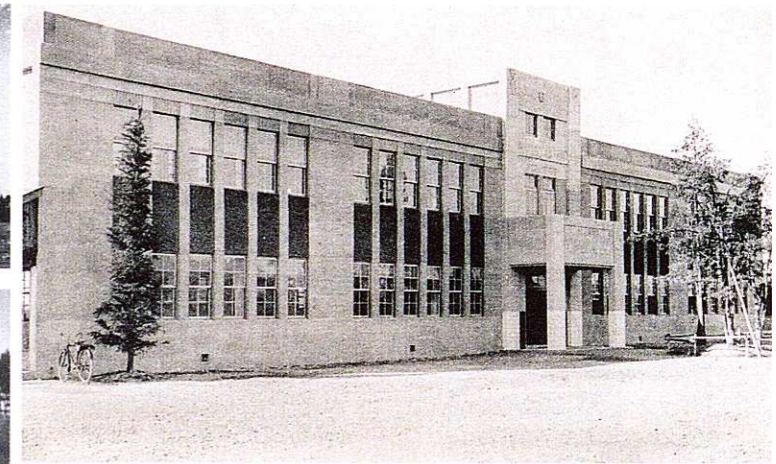
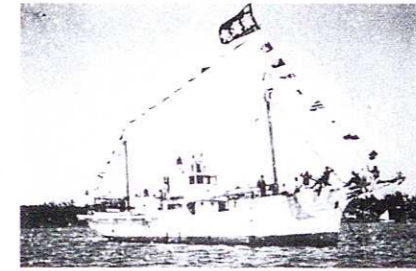
③ 第二回歌唱研究会 焼津尋常高等小学校の第二回歌唱研究会（音楽会）は、1922年（大正11）12月9日に開催され、教員の合奏、生徒の遊戯や劇が行われた。写真は上右が高等一年女子の「歌劇舌切雀」、上左が尋常三年男子の歌劇「桃色ノカナリヤ」、下が教員合奏「ハンタマンスコリス」である。



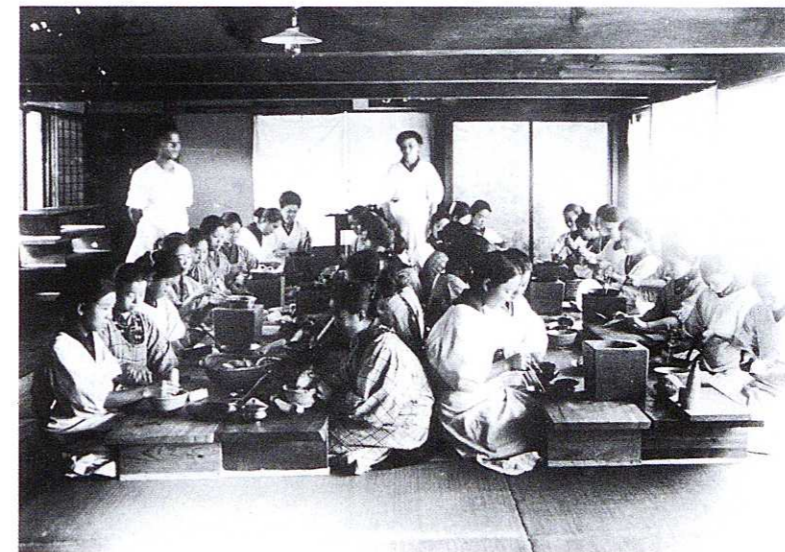
④ 体育大会 当時の国家的要請もあって体育が奨励され、各校で多様な取り組みが行われた。写真は1918年（大正7）10月27日に実施された焼津尋常高等小学校の「体操練習會次第」である。



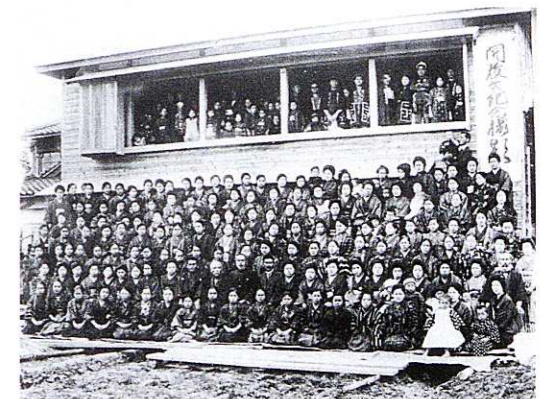
⑤ 綴方研究会 1929年（昭和4）2月25日、綴方研究会が大富尋常高等小学校で開かれた。写真には尋常五年女子と後ろで参観する「横内校岩崎先生、男子附属岡先生、増田校長、女子附属鈴木先生」や同校教員が写っている。



① 焼津水産学校 県下一といわれた新築の鉄筋校舎。左は練習船東海丸、および漁業実習として行われた海岸での炊飯風景である。県内唯一の水産学校として各地から生徒が集まった。



② 焼津高等裁縫女学校 静岡県焼津高等裁縫女学校の開校記念写真。良妻賢母養成をめざす教育が行われ、実習も重視された。左は調理実習の様子である。

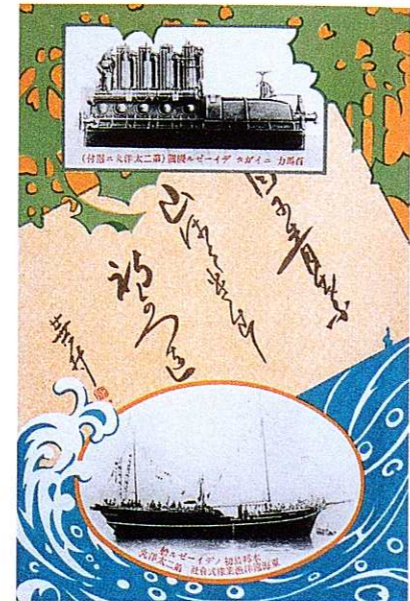


焼津カツオ漁業は大正期に急成長した。二船主  
 法人の漁獲高は、④が四四万円から一五二万円へ、  
 ⑤が二九万円から二〇〇万円へと増加した。焼津  
 魚市場の取扱いは地元船、地元外船含めて一〇  
 〇万円から五七〇万円へと急伸した。港もなく海  
 岸に設置された魚揚場はカツオであふれる状況と  
 なった。

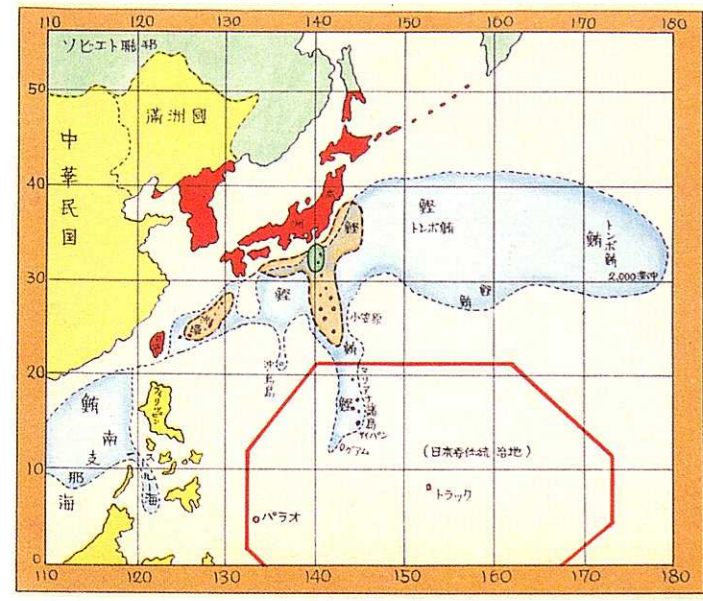
これらの成果はカツオ漁業ははじめサバ釣漁業の  
 生産能力の増強によるものであった。カツオ漁船  
 の隻数増加、船型の大型化（五〇ト型へ）、機関の  
 高馬力化（一〇〇馬力へ）やディーゼル機関化、  
 操業海域の拡大（小笠原諸島・三陸沖・鹿児島沖へ）、  
 さらに、マグロ漁業との兼業化による周年操業  
 へと進展したなどである。

サバ釣漁業も小型船ながら五〜六ト型から一  
 五〜二〇ト型となり伊豆七島近海の新漁場に進出  
 し好漁した。沿岸漁業は和田村が盛んで、定置網  
 （大敷網・大謀網）、イワシ地曳網、手操網等が営  
 まれていた。

カツオの水揚げ高の増大は地場の鯉節製造業の  
 大規模化をもたらした。景気変動の影響を受けつ  
 つも鯉節の生産体制が整備され、他県からの荒節  
 移入を伴いながら地節（焼津生産の節）生産量は  
 大正期を通じて大幅に伸長した。



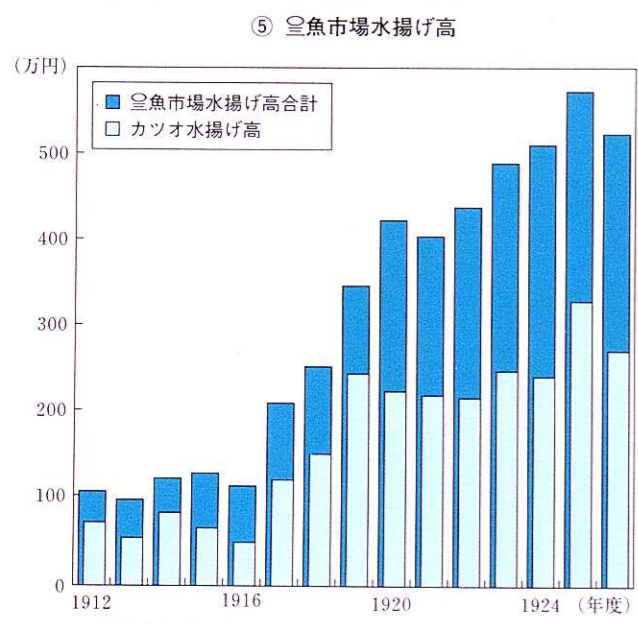
②第2大洋丸の絵ハガキ 新潟鉄工所製  
 ディーゼル機関装備を記念した第2太  
 洋丸（1920年進水）の記念絵ハガキ。



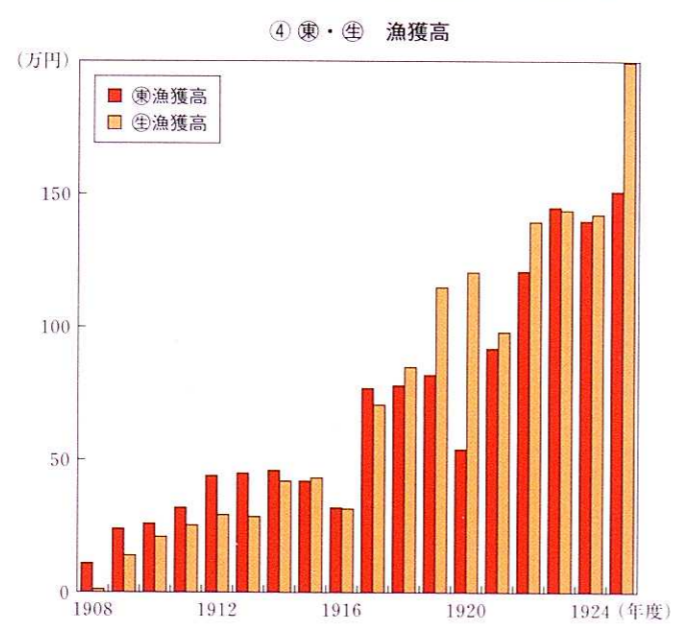
創業者時 伊豆七島附近  
 大正時代 伊豆七島小笠原諸島近海 三陸沖 鹿児島沖  
 昭和時代 伊豆小笠原諸島近海 三陸沖 鹿児島沖  
 分布 伊豆小笠原諸島近海 三陸沖 鹿児島沖  
 昭和時代 伊豆小笠原諸島近海 三陸沖 鹿児島沖

漁場伸長比較 (昭和十一年五月)

③漁場の拡大 カツオ釣漁場は伊豆大島から小笠原諸島への南方向と日本沿岸の黒潮流域に  
 沿った東西方向へと拡大した。  
 \*『東海遠洋漁業株式会社三十年史』より転載



\*『焼津漁業史』より作成。

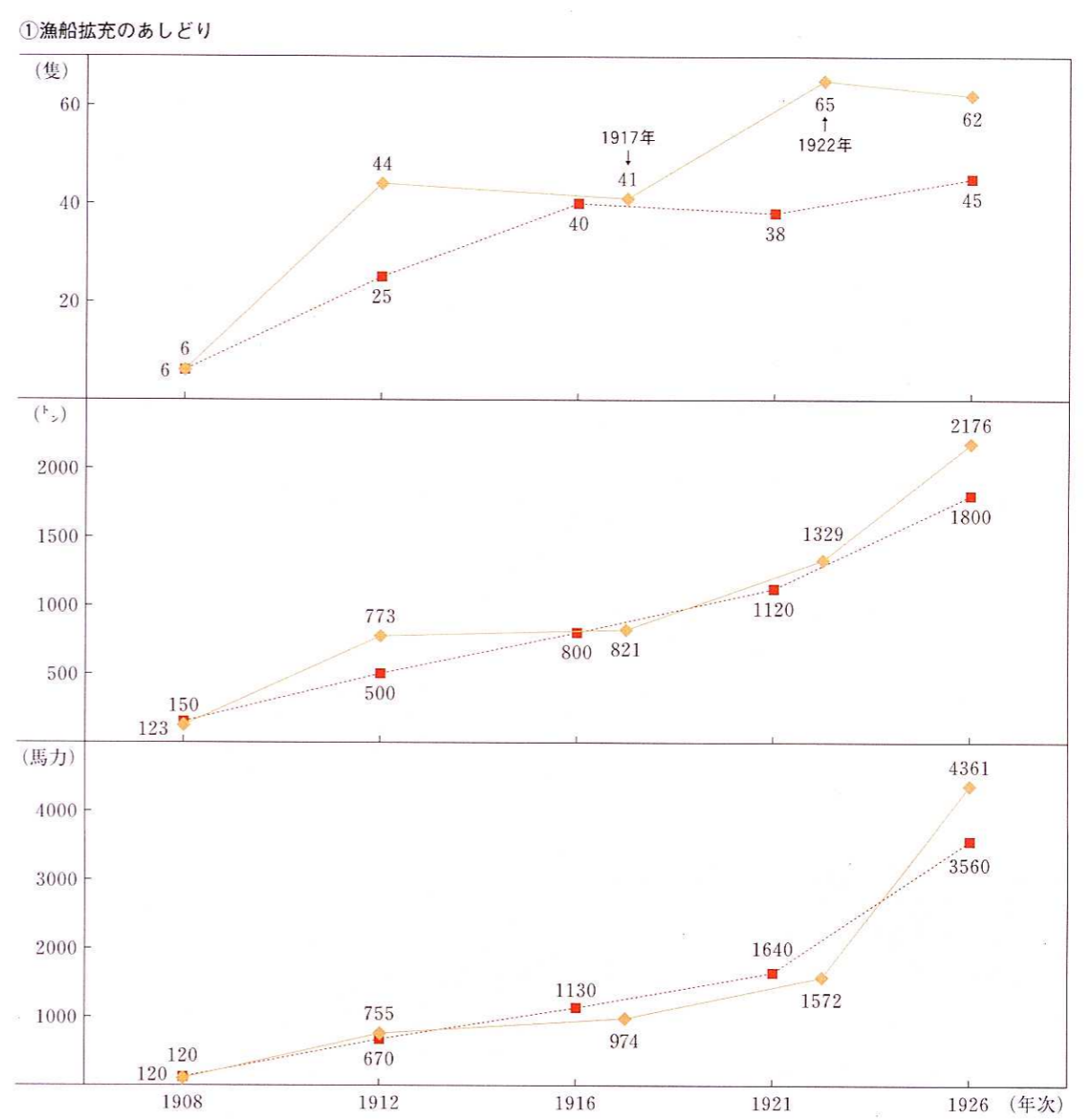


\*『東海遠洋漁業株式会社三十年史』、有限責任焼津信用購買  
 利用組合「我組合の概況」より作成。

④、⑤の所属漁船の漁獲高は大正期の後半、そろって急増した。



⑥ 魚市場の取扱いは地元の漁業基地焼津の魚市場は海岸の一角に建てられ、漁獲物の多くは砂浜に並べられて取引されたが、鯉節製造業者の需要が高まったこともあり地元外船の水揚げも多く、魚市場の取扱いは急伸した。



①船主法人④、⑤は発足以降、大正期には歩調を合わせて漁船勢力を拡充した。  
 なお、この間、⑤の名称は信用、購買、販売等の事業が追加されることに変更された。  
 \*『焼津漁業史』より作成。

# 60 大正期の農業と農家経営

焼津地域の農業生産の特色は、県内東海道筋に広くみられるように、商品作物が活発に生産されていたことである。一つには、耕作地面積が狭いことによる現金収入確保の必要性、また一つには風水害多発のなかで経営危機の回避策として、さらにはこの地域が温暖であること、地方の高さなど、自然条件も逸することはできない。大正期、製茶・梨作り・養蚕業のための桑園など、活発に取り組みれていた。

和田村の桜井家史料には、農業経営日誌が残されている。ここでは畑作業の様子が克明に描かれている。とくに「蔬菜園」⑤にみるとおり、この地域では大正期、商業的農産物が積極的に栽培され、また雨天には「藁仕事」が行われていた。当時、静岡県堀之内（現菊川駅）・掛川・袋井・磐田の各駅から大運輸港のある横浜方面に出荷された藁工品の量は、小樽港のサケ・マス漁への利用に供された青森県黒石駅につぐ活況を呈した。焼津地域でもその影響をみることができる。農家にとっては、自己生産である米作の藁を活用する、じつに有効な現金収入源だったのである。また当時、静岡県でも農事試験場に蔬菜部が設置されている。

## 静岡県志太郡勧業計画

### 産業奨励ニ關スル件

諭告第二號  
 吉原農園ノ券ヲ引ヘリ、文明ヲ進メテ商工業如何ニ進歩スルモ其原料ハ凡ソ之ヲ農家ノ生産物ニ仰ガナルヘカラス、サレハ商工業發達スルニ伴ヒテ農家ハ益々肝要トナレリ、一國ニシテ既ニ然リ況ンヤ本郡ノ如ク農業ヲ以テ最モ大切ナル生産トシ國民ノ幸モ不幸モ一ニ農業ノ成敗ニカカレニ於テラヤ、然モ此ノ大切ナル本郡農業ノ現狀ヲ見テテ他郡ニ比較スルニ土地ノ面積ト人口トニ比シテ産額割合ニ少ク品質既レテ良射ト云フヘカラス、又農民ノ學識、耕作方法、肥料、農具ノ選擇、耕地ノ力及資本ノ利用等ニ於テ改良ヲ要スル點頗ル多シ。  
 由來本郡ハ田圃割合地味豊沃ナリト稱セラレシモ、之ヲ生産的方面ヨリ觀察スルニ、平地大部分、耕土淺薄ニシテ穀分ノ吸收力ニ乏シク其地力ハ概本中等以下ニ位シ、林野畜養林ノ造成ニ可ナラサルモノ多ク加フルニ地質崩壊ノ虞

①志太郡勧業計画 明治末期、全国的に日露戦争後の疲弊状況が生まれ、これに対して政府は地方改良運動を組織した。それと運動して勧業計画が県でも郡レベルでも取り組まれた。「産業奨励ニ關スル件」で、郡は産業奨励の指示を地域に発している。

### ③焼津地域農家構成 (1927年)

	本業	副業	自作	自作兼小作	小作
豊田村	93%	7%	24%	41.9%	34.1%
大富村	91%	9%	19.1%	41.3%	39.6%
和田村	77%	24%	12.9%	78.8%	8.4%
小川村	92%	8%	28.5%	61%	10.5%
東益津村	72%	28%	42.4%	28.8%	28.8%
焼津町	70%	30%	26.6%	63.1%	10.3%
合計	82%	18%	24.7%	53.3%	22.1%

\*『静岡県統計書』1927年版より作成。  
 \*本業、副業では小数点以下は切り上げ。

### ②焼津地域の報徳社組織の状況 (1914年)

	資産総額(円)	社員(人)
豊田村		
丁西	1,628	26
柳栄	1,445	27
丙申	5,989	89
三豊	1,532	47
小柳津	1,913	13
大富村		
上小田	7,720	70
善実	1,492	14
積善	4,633	52
立身	750	16
東益津村		
高草	128	16
一心	220	22
焼津町		
大村新田	2,802	20
誠心	990	51
その他	33,821	637
志太郡内合計	65,063	1,100

\*『静岡県報徳社事蹟』(1906年)より作成。

②報徳社運動は静岡県が全国の中心地となったが、とくに遠州地域で盛んであった。焼津地域にもその動きがみられたことがこの表からわかる。

## 大正八年度

# 果樹園日誌

④大正8年度果樹園日誌

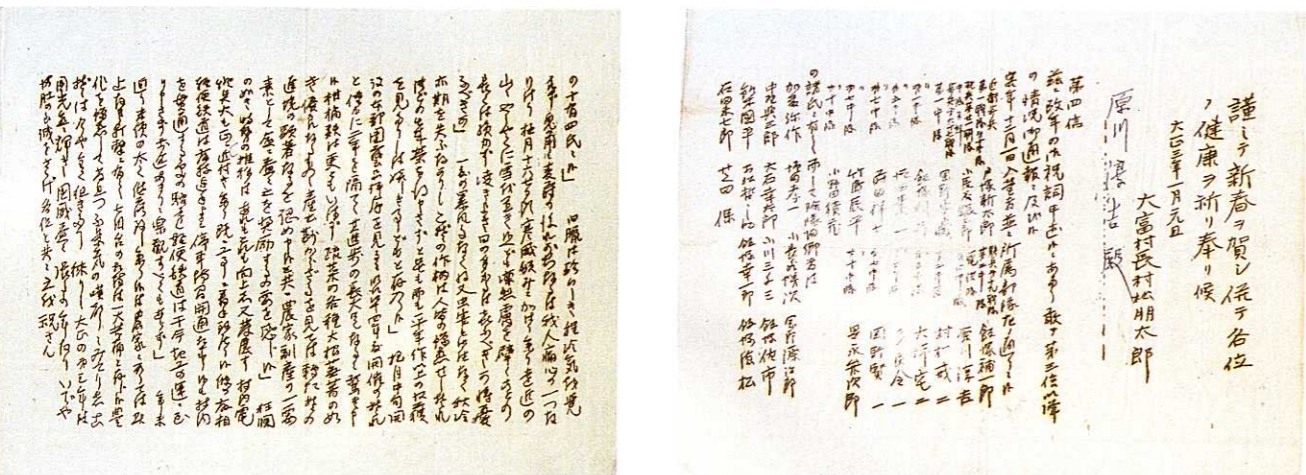
## 大正九年度

# 農場日誌

## 蔬菜園

⑤大正9年度農場日誌 蔬菜園

④及び⑤2つの農業日誌は当時、この地域でどのような作物の生産に力が注がれていたか、農民の生活がどのようなものであったかを知る手がかりになる。



⑥大富村通信 大富村は焼津地域で純農村的な地域といつてよい。この時代、町村は人々にさまざまな公報を発して地域振興に努めた。通例、村報の形式で出されていたが、この村は独自の体制をとっていた。



近代都市焼津の発展をみると、一九三四年（昭和九）、焼津町全域に都市計画法（一九一九年）が適用されたことは重要である。

当時の市街地は、狭い道路を挟んで狭小家屋が無秩序に密集するという状態にあった。しかし、当時の自治体には、計画的に都市環境を整備する（たとえば土地区画整理を実施して広い道路・公園などを確保しつつ良好な住宅環境も整備する）という発想はなかった。そのような法的装置としてすでに都市計画法が存在していたが、三四年に至るまで焼津町には適用されていなかったのである。

都市計画法と一体のものに市街地建築物法（一九一九年）があった。それは日本最初の本格的建築物規制法として、用途地域制による地域区分、建ぺい率、高さ制限、建築線、構造規制、防火対策等を規定した。同法が焼津町に適用されたのは一九三六年（昭和一一）のことであった。

このように一九三〇年代半ば、焼津町は、都市計画的手法を活用しうる法的条件を与えられた。しかし、これによって焼津の街並みがただちに近代都市のそれにならなかつたわけではない。実際に焼津市において近代的な都市環境づくりが開始されるのは、第二次世界大戦以後のことであった。

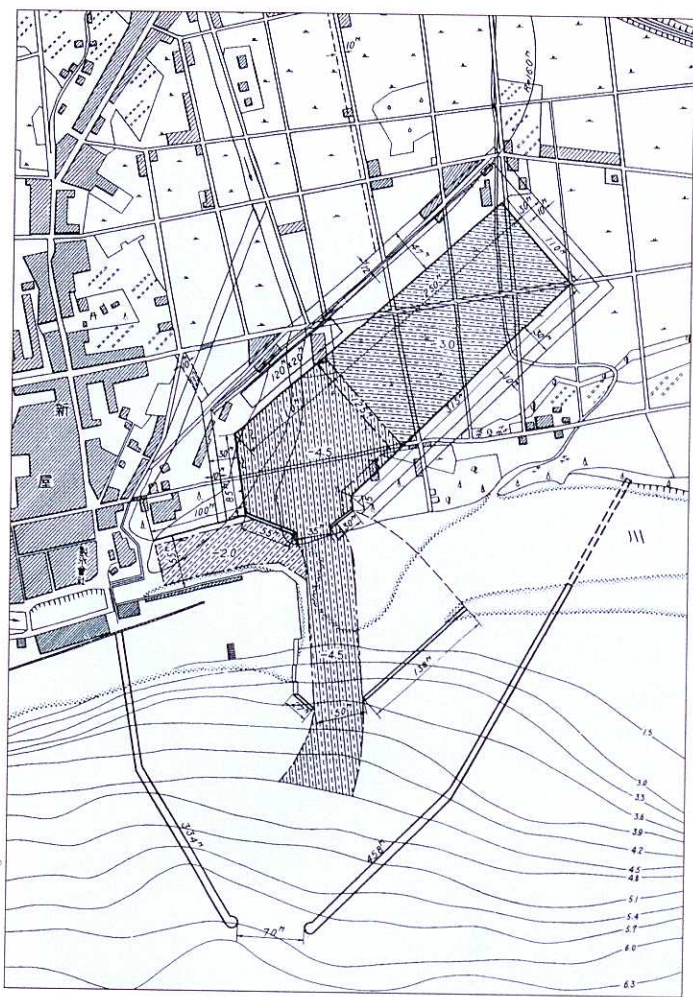
**市街地建築物法適用に就て**

當町に市街地建築物法が適用せられたのは十月二十一日より施行するといふことである。本法は都市の風貌を保全し、交通、保安、衛生を維持し、都市の発展を促進し、都市の生活を向上させることを目的とする。本法は、都市の発展を促進し、都市の生活を向上させることを目的とする。本法は、都市の発展を促進し、都市の生活を向上させることを目的とする。

項目	規定
敷地	敷地の形状、面積、用途等について規定あり。
建築物	建築物の高さ、建ぺい率、建築線等について規定あり。
位置	建築物の位置、向き等について規定あり。
設計	建築物の設計、構造等について規定あり。
防火	防火対策、防火線等について規定あり。
その他	その他、都市の風貌を保全するための規定あり。

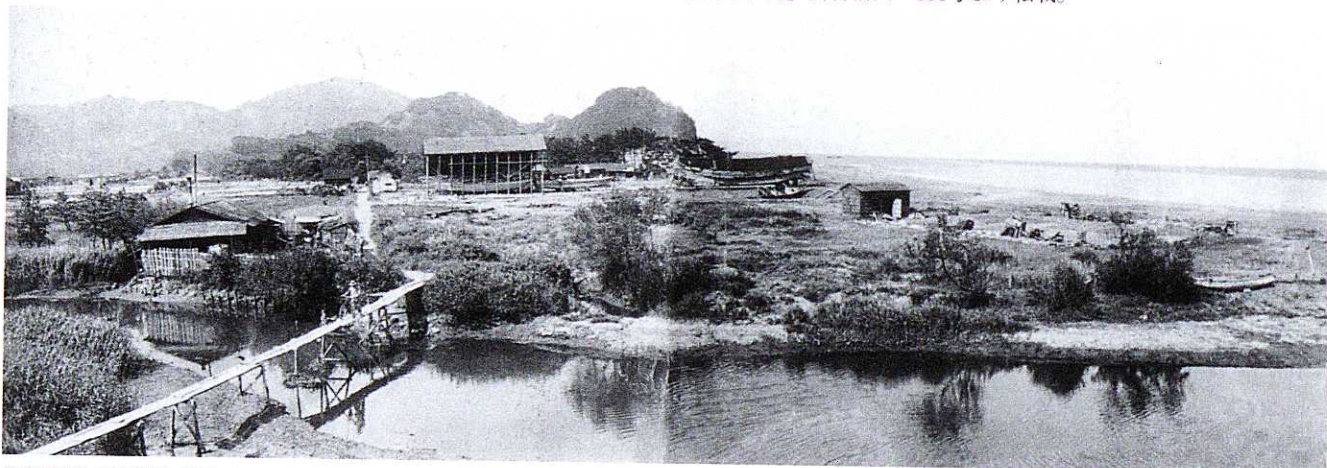
現在（十月二十一日）工事中の建築物  
 十月二十一日より三十日までの間に工事を完了する建築物  
 十月二十一日より三十日までの間に工事を完了する建築物  
 十月二十一日より三十日までの間に工事を完了する建築物

③「市街地建築物法適用に就て」のピラ 無秩序な都市空間形成に対するささやかな法的規制の始まりである。

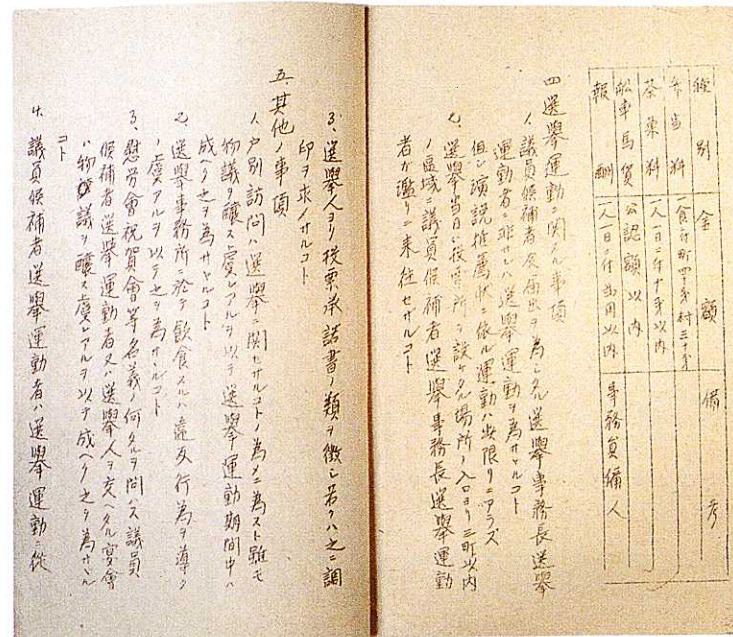


④焼津漁港修築計画平面図 焼津港修築問題は長年にわたり、焼津町の最重要行政課題の一つであった。ついに1935年（昭和10）、基本計画が確定し、39年、7カ年事業として施行することが正式に決定された（翌年、事業開始）。

\*『焼津市史』資料編四—353号より転載。



⑤築港前の海岸の様子（1934年頃）



①村会議員選挙協定事項 昭和期に入ると普通選挙が実施されるが、それは同時に厳しい選挙運動規制をもたらした。右の豊田村の資料は、議員候補者・選挙事務長・選挙運動者以外の者（つまり一般市民）の選挙運動の禁止、戸別訪問の禁止などについて記している。



②戦前の焼津市街地 焼津の市街地は、江戸時代、この海岸通り（黒石川から海側へかけての焼津湊3カ村（鯛ヶ島・城之腰・北新田）において形成された。その後、黒石川を越えて次第に西側に拡大していった。

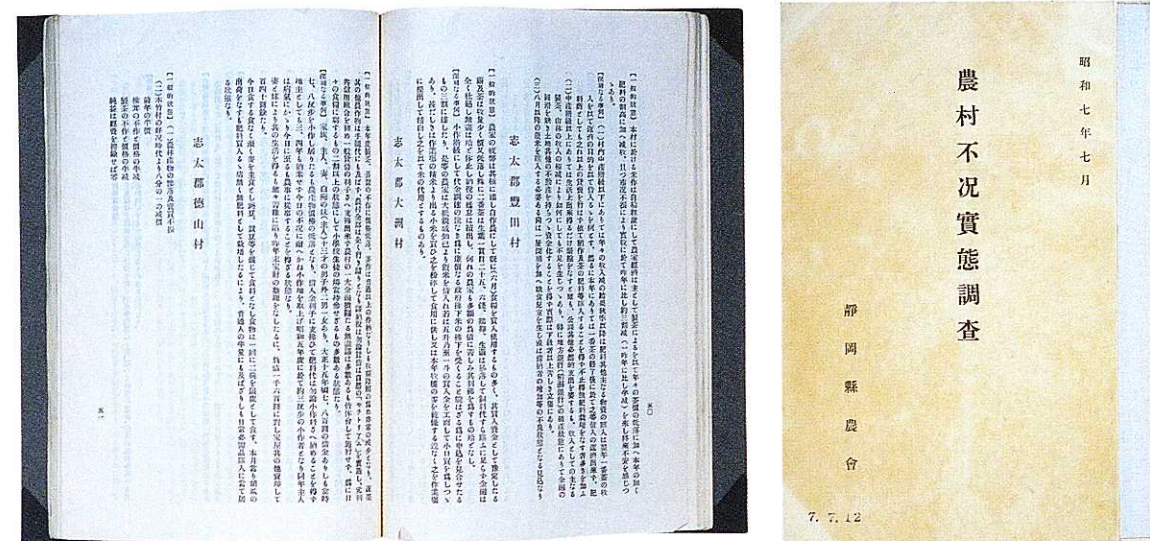


一九二七年（昭和二）三月、東京渡辺銀行の取り付け騒ぎと営業停止を出発点として金融恐慌が勃発した。これにより、第一次大戦期以来、関東大震災後の動揺を経た膨張経済の結末がみえ始めた。そのため政府は銀行設置条件を厳格にし、銀行の合併、統合策を三三年までの時限で実施した。引き続き一九二九年以降の世界大恐慌（昭和恐慌）下で、政府は農山漁村の経済更生運動、自力更生方針を打ち出した。負債を抱える農漁業経営の苦境を伝える静岡県農会編『農村不況実態調査』が刊行され、農会費滞納で休会に入った焼津町農会の報道もみられる。また政府の農村救済政策に沿って、「本村亦此の渦中より脱するを得ば年々歳々収支償はず欠損は負債となり之が元金の償還し得ざるは勿論利息の支払さへ困難となり」（『東益津村経済更生計画書』⑤）のように、各町村で町村長を会長に、有力者・吏員・教師などを含む経済更生委員会が組織され、農産物増産五カ年計画に取り組んだ。大富村青年団日誌は「首相自ら街頭に進出し自力更生の運動をした事は極めて結構な事である。しかしその結果は何等見る可き気運はない。何故ならばそれは唯表面的行為のみで有り極端に云へば、かけ声ばかりで有る」と記録していることが注目される。

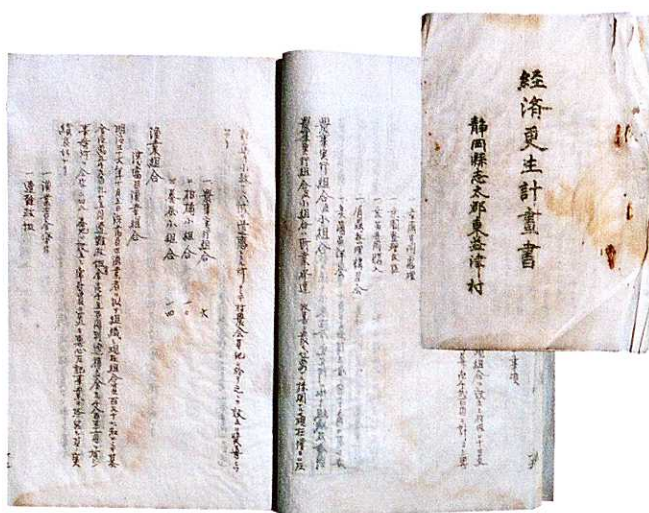


④『町村経済更生計画概要』 農村不況を克服する目的で経済更生計画が農林省によって提起され、町村段階から県段階まで取り組みを強めた。しかし起死回生には至らなかった。

町	村	調査	備考
東益津村	東益津村	調査済み	
大富村	大富村	調査済み	
...	...	...	...



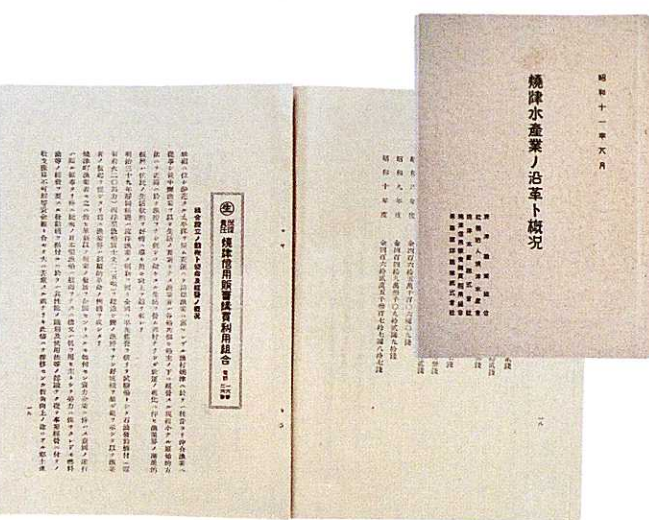
①『農村不況実態調査』 静岡県農会が昭和農業不況に際して、全県の農村状況を調査したが、各町村の調査をほぼ同一項目で整理しているため、状況を比較対照してとらえるのに便利である。



⑤『東益津村経済更生計画書』 経済更生運動期、農林省は町村ごとに計画書を作成させ、模範町村の選定を行って、景気回復に努めようとした。



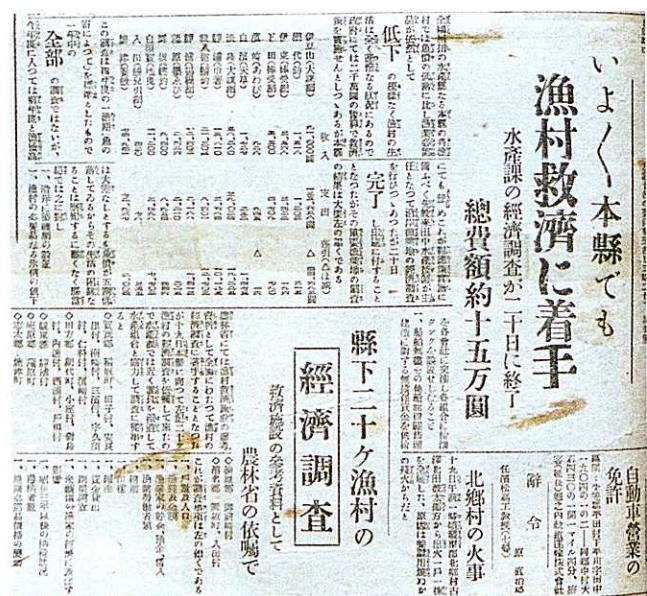
⑥馬のいる風景 1932年（昭和7）頃の東益津村の様子。



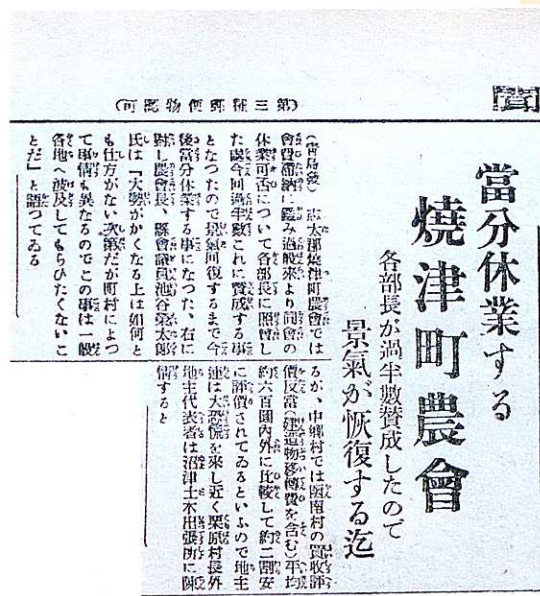
⑦『焼津水産業沿革ト概況』 焼津水産業の歴史と昭和恐慌下の1930年代中頃までの状況を詳しく伝えている。



⑧小川の船溜まりと家並み（1931年頃）



③焼津地域の経済不況を伝える新聞記事（『静岡民友新聞』昭和5.9.21） 焼津地域は農村と漁村を抱え、しかも遠洋漁業の根拠地として、当時の不況のなかで独特の発展の兆しをみせていた地域であった。



②焼津地域の農村不況を伝える新聞記事（『静岡民友新聞』昭和6.2.15）

マグロ缶詰の製造試験は明治期末より行われてきたが、企業の生産は静岡県水産試験場の技師村上芳雄によって開かれた。一九二九年（昭和四）（現静岡市清水区）の企業家によるもので、翌三〇年より操業開始され、生産物はほぼ全量がアメリカへの輸出に向けられた。その後、マグロ缶詰会社の設立が続き、清水・焼津地区に工場が集積した。

当時の缶詰工場の設備は、クッカー・レトルト・肉詰四段式コンベア・シーマー（巻縮機）・櫛型切断台・塩入れ台といった機械が主体で、肉詰めは手作業であった。缶詰製造設備の主役はシーマーで、つぎつぎと改良型が製作され配備された。ミカン缶詰の製造はマグロ缶詰と組合せて工場の周年操業を維持するために一九三〇年（昭和五）から開始された。マグロ缶詰の生産は原料調達に制限から夏季に限られていた。ミカン缶詰の生産が始まると、ただちに静岡県下に普及し、全国一位の生産県となった。

マグロ缶詰、ミカン缶詰とも製品の大半が輸出向けとなった。輸出先はマグロ缶詰がアメリカ・カナダ向け、ミカン缶詰はイギリス向けが多く、それぞれ輸出市場を異にした。

⑤ マグロ油漬缶詰のアメリカ・カナダ向け生産個人別割当

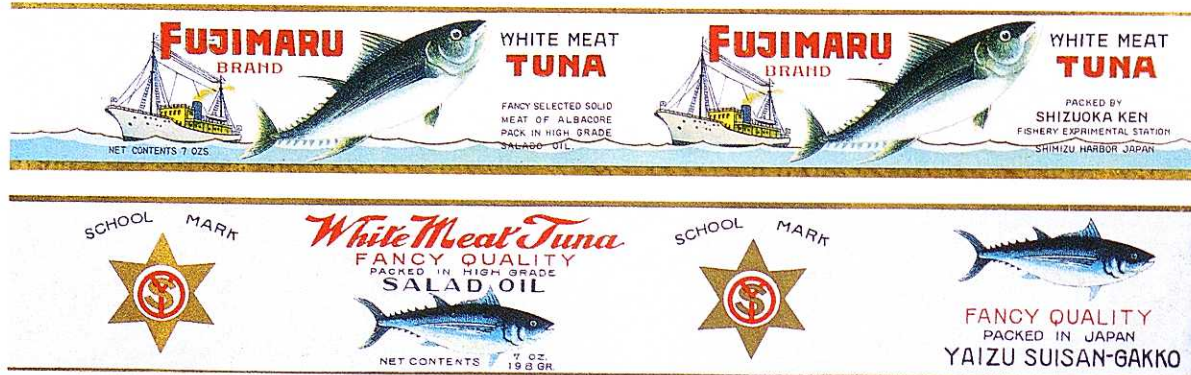
(1935年度)		(単位：箱)	
清水食品(株)第一工場	51,989	富士水産食品(株)	9,479
〃 第二工場	7,155	三共商会	7,925
清水水産(株)	39,380	由比缶詰所	9,773
後藤磯吉	34,062	平野友安	5,633
帝国缶詰(株)	10,649	磐城水産工業(株)	5,524
焼津水産缶詰(株)	19,760	焼津食品(株)	7,354
旭海産興業(株)	7,741	大平物産缶詰所	3,349
蒲原缶詰(株)	9,379	柴田太吉	5,473
株林兼商店	18,111	村上敦	3,540
東海遠洋漁業(株)	15,235	四ツ菱食品(株)	3,378
日本冷凍輸送(株)	10,248	杉山留吉	3,326
マルエス水産(株)	15,308	羽淵久重	3,634
末永保蔵	11,079	村田金兵衛	3,319
桜田虎蔵	10,868	森 眞	5,245
静岡食品(株)	12,084	計	350,000

\*『静岡県缶詰史』より作成。 \*青字は焼津の会社。

④ マグロ油漬缶詰の全国生産及び輸出高

年次	生産高	総輸出	アメリカ輸出
1930 (昭和5)	11,500	81	79
1931 (昭和6)	28,500	29,201	25,518
1932 (昭和7)	264,941	255,627	247,633
1933 (昭和8)	705,488	680,282	670,004
1934 (昭和9)	276,195	284,217	225,663
1935 (昭和10)	381,585	391,917	267,186
1936 (昭和11)	358,742	374,932	210,879
1937 (昭和12)	564,689	583,690	401,937
1938 (昭和13)	326,672	322,043	180,784
1939 (昭和14)	230,441	573,980	372,115
1940 (昭和15)	488,280	397,105	121,465

\*『まぐろ缶詰史』より作成。  
\*1箱=ツナ2号缶4ダース(48個入り)



⑥ 缶詰ラベル各種



④⑤⑥ マグロ缶詰（油漬）の生産は輸出市場（アメリカ・カナダ）の拡大とともに急成長した。缶詰のラベルも輸出向けにデザインされたものが多い。



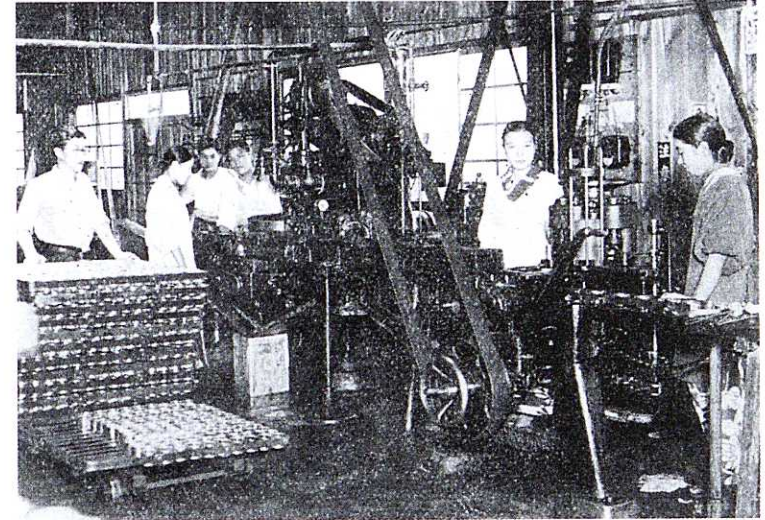
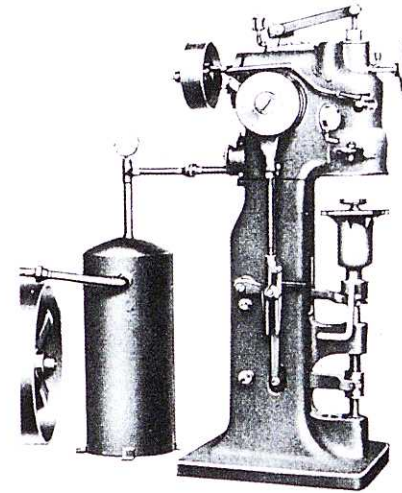
⑦ 輸出用缶詰パンフレット 東海遠洋漁業株式会社が作成した自社ブランドの英文パンフレット（発行年不明）。



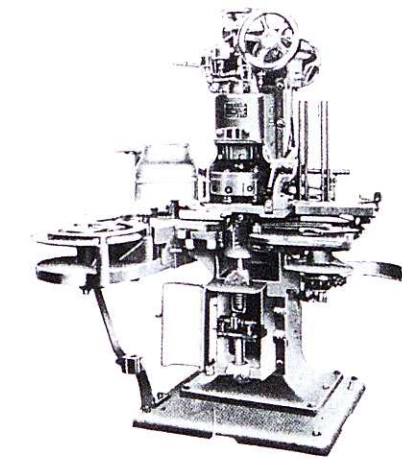
⑧ 焼津市内のミカン缶詰工場（1936年12月）

工場名	製造能力	従業員数		原料買入先
		男	女	
缶詰(株)	50,000箱	12人	130人	東益津村・岡部町
丸東缶詰(株)	20,000箱	15人	100人	朝比奈村・東益津村
今村松商店	5,000箱	10人	30人	東益津村・その他
焼津食品(株)	50,000箱	15人	200人	東益津村・朝比奈村

\*『静岡県缶詰史』より作成。



① 寒水産工業部缶詰工場 ビンナガマグロ缶詰（油漬）製造を目的に1933年に操業開始、1936年丸東缶詰(株)へ改組、トップメーカー清水食品と提携、事業基盤を確かなものとした。  
\*『東海遠洋漁業株式会社三十年史』より転載



③ シーマー（巻縮機） 缶詰製造設備の主役。改良型をつぎつぎと導入。0型、6型サンタリーシーマーが有名である。  
\*『静岡県缶詰史』より転載



② 戦前のミカン缶詰作業 ミカン缶詰工場内の作業は多くの女工の手作業だった。  
\*『静岡県缶詰史』より転載

大正デモクラシーの風潮のなかで、小学校では綴方教育が普及し、やがて中学生の文学グループもできた。焼津では一九二〇年(大正九)以降、同人誌が表(③)のようにつぎつぎと発行され、青少年を主体として文学運動が盛んになった。とはいっても執筆者の七割は同じ顔ぶれであった。田中久雄は歌集『細道』を出したが、個人で出版する同人もいた。

しかし一九三五年(昭和一〇)十一月、『火耕』編集の同人らが無政府共産党のシンパとの嫌疑を受けて検挙された。のち釈放されたが、『火耕』は廃刊となり、焼津の文学運動は衰退した。

焼津ゆかりの画家やデザイナーは必ずしも多くはないが、貴重な日本画家とデザイナーがいる。日本画家の益頭峻南(一八五一―一九一六)は祖父が焼津出身であり、父は咸臨丸で一八六〇年にアメリカにわたった。峻南はそのような父を持った事からフランス語に堪能で通訳の仕事をしたが、日本画を野口幽谷に学び花鳥画を得意とし、明治後半から大正年間の初めにかけて活躍した。志太郡小川村に生まれた片岡敏郎(一八八二―一九四五)は、若いころから商品販売する広告の仕事にかかり、大正年間から戦前にかけて活躍した。



④牡丹孔雀図 益頭峻南画、1幅、縦180.0×横86.3cm。1909年(明治42)。番の孔雀と牡丹を画面いっぱいに描いている。伝統的な画題を確かな技法により大画面の花鳥画として完成した。



⑤花に白鷺図 益頭峻南画、1幅、縦147.0×横198.0cm。明治年間。水辺に憩う白鷺を描く。横2m近い大作で、画家としての力量を発揮した作品である。

益頭峻南 今日、峻南の作品は多くは知られていないが、なかでも牡丹孔雀図は代表作である。花鳥図は日本画のなかでも多くの人々に好まれ、美しい花や鳥の描写に魅かれた。とくに鳥は番で描くことにより仲間つまずく、牡丹は富貴の象徴としても好まれた。皇居の襖絵を担当するなど明治後半から大正初めにかけて代表的な画家であった。

片岡敏郎

志太郡小川村出身のコピーライター。日本ではじめてヌード女性を使った寿屋(現サントリ株式会社)の「赤玉ポートワイン」のポスターで知られる。また、「歯磨スモカ」の広告のコピーも斬新なものがあり、現代のコピーライターの元祖といわれる。



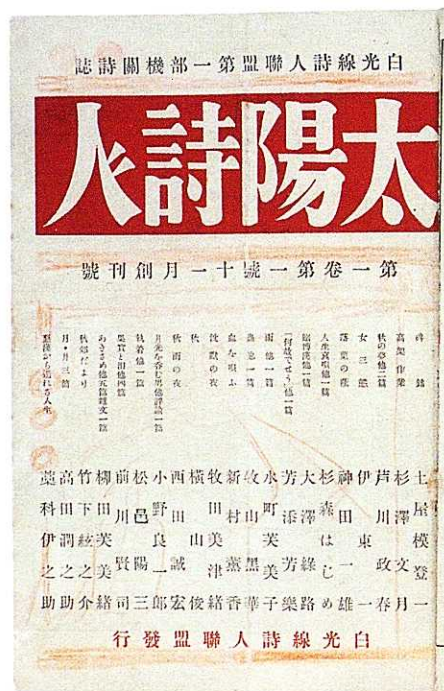
⑥「赤玉ポートワイン」ポスター ディレクター・片岡敏郎、デザイナー・井上木它、寿屋、1922年(大正11)。女性のヌード写真をはじめ使ったポスターとしてよく知られている。片岡のデザイン感覚ははるかに進んだものであった。



⑦「歯磨スモカ」新聞広告 寿毛加社、昭和初期。新聞広告として連載されたものの一つで連載は長期にわたっており、多くの人々の共感を得た。日本におけるコピーライターの元祖としての片岡の特徴がよく知られる。

③焼津の同人誌一覧

誌名	編集兼発行人	創刊年月	備考
瀝青	(不詳)	1920年(大正9)4月	静岡市の『暮笛』が発展解消してできた歌誌。
砂丘	田中久雄	1922年(大正11)末	詩歌が主。1924年19号で廃刊。活版印刷。
杜鵑	岩崎鉦次	1926年(大正15)9月	作文・短歌・俳句が主。1926年11月3号で廃刊。謄写版印刷。
水平線	岩崎鉦次 長谷川平一	1927年(昭和2)1月 1929年(昭和4)2月	『杜鵑』を改題。1号で休刊。謄写版印刷。1929年6月3号まで発行。活版印刷。
白鷺	岩崎徳治	1927年(昭和2)4月	総合誌。同人・詩友60名余。1927年10月7号で廃刊。約50頁。活版印刷。
太陽詩人	柳田美美緒	1928年(昭和3)11月	同人は藤枝が多い。プロレタリア傾向の作品もある。翌年8月4号で廃刊。
浮標	田中久雄 鈴木賢	1929年(昭和4)5月	詩・短歌が主。大判4頁。1931年7月8号で廃刊。
舗道作家	田中久雄	1929年(昭和4)10月	2号は評論・創作・詩歌がある。翌年3月3号で廃刊。
氷魚	田中久雄	1930年(昭和5)5月	『舗道作家』を改題。詩歌が主。1号で廃刊。
海上線	天野録	1930年(昭和5)10月	漁業青年による詩誌。1932年6月までは発行しているが以降は不詳。
雑木林	鈴木賢	1931年(昭和6)9月	『浮標』を改題。詩と短歌が主。1号で廃刊。
郷土座	井出龍男	1932年(昭和7)4月	総合誌。1932年8月頃廃刊か。
火耕	鈴木賢 八木勝	1932年(昭和7)4月	詩誌。少数の同人と著名詩人の寄稿が多い。1935年『島人詩』を合併。同年10月20号で廃刊。
漁師	長谷川敏郎	1933年(昭和8)11月	漁業青年の詩誌。1934年2月3号で廃刊。



①同人誌『太陽詩人』の目次 創刊号は詩が多い。22頁、誌代20銭。同人は32名。3号は70頁となる。



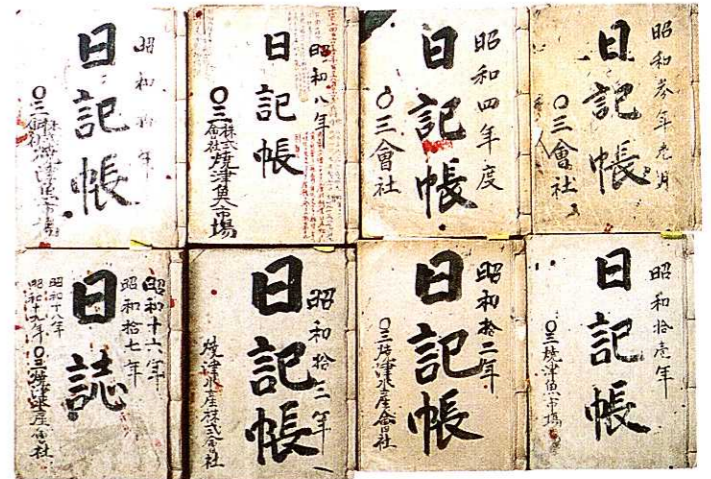
②同人誌 1924年より創刊の焼津町青年団の機関誌『怒濤』に、同人らも寄稿している。

# 66 戦時下の経済統制

昭和恐慌の渦中で、一九三二年（昭和六）九月一八日、中国東北の満州駐留関東軍が柳条湖で鉄道爆破を仕掛け、満州全土制圧に乗り出した。満州事変である。以降政府は準戦時体制を標榜し、国際連盟の脱退、満州国建国、さらに一九三七年（昭和一二）七月七日の盧溝橋事件（日中戦争）、四一年二月八日の真珠湾攻撃（太平洋戦争）と、欧米を全面的に敵に回し、日本・ドイツ・イタリアの防共協定をきっかけに戦域を拡大していった。こうしたなかで、焼津地域でも多数の青年が兵役に徴集された。

遠洋漁業では、戦争への物資動員に鯉節などの供給が要請された。こうした動向を当時〇三焼津水産株式会社に勤務していた井出辰吉が日記帳に克明に付けていた。また「商業報国」の名の下に、各職域単位の報国会が組織され、焼津でも商業報国が叫ばれた。商工更生委員会が設置され、斯波勲焼津町実業協会理事らが加わり、各種商業組合が一体化された。商工業の転廃業も推進されたが、これらの関係史料は斯波のスクラップブックに残されている。

経済統制と同時に、県内では資金供給の効率化を目指し、一九四一年（昭和一八）、静岡銀行への銀行統合などが進んだ。



①井出辰吉日記帳 井出辰吉は〇三焼津水産株式会社に長く勤務し、準戦時、戦時時に役員を務めたが、その時代の漁業経営と組合を取り巻く状況を克明に伝える日記を残した。

### けふ糧秣本廠へ 鯉軍食指定方申請

本縣鯉節組合は今日、陸軍糧秣本廠へ本申請書を提出し、焼津方面の遠洋漁業に必要とする軍食の供給を要請した。

第三師團へ 魚食を陳情

焼津町の水産五團體代表は、陸軍糧秣本廠へ、焼津方面の遠洋漁業に必要とする軍食の供給を要請した。...

④鯉軍食指定の申請（『駿遠タイムス』昭和12.7.6） 焼津方面の遠洋漁業者にとって、戦時下の経営発展を実現する上で、軍用食料として調達されることが必須の課題であった。

### 商業報国週間

商業者ノ国民精神總動員

第1回商業報国週間実施要項

第1日 精神教育  
第2日 清掃活動  
第3日 商品受取  
第4日 ムタナシ  
第5日 勤労奉仕  
第6日 販賣奨励  
第7日 販賣成績競争

### 防諜運動呼びかけ

盡せ国防 蹴飛ばせ 問諜

防諜とはなんぞか！

戦時五目井など 戦時ちらし、戦時五目井などは配給制や公定価格制で縛られ、人々の日常食もさまざまな工夫を強いられた。

⑧防諜運動呼びかけ 戦時下、防諜は重要課題であり、とくに1941年、ソ連スパイとされたゾルゲ事件に連座したジャーナリスト尾崎秀実逮捕以降、この運動が強化されていった。

### お持ちの金は 直ぐ賣つて下さい

最寄の銀行へ扱ひます

銀行では、現金の融通が容易で、かつ、金貨の保管に便利である。お持ちの現金は、直ぐ銀行へ売ってください。

### 有名な金徳利 政府へ

焼津各業者連繫 自肅委員会を設立

進んで経済統制に協力

### 藤農生が勤勞奉仕 毎日百五六十名

学校も茶や蔵で多忙

藤農生が勤勞奉仕、毎日百五六十名。学校も茶や蔵で多忙。...

### 金の供出運動、勤勞奉仕、業者自肅委員会

昭和12.7.6 軍事産業労働力確保のための勤勞奉仕や軍事再編への商業界の協力、営業停止などが行われた。

### 金動總神精民國

金は戦時下の生命線。金動總神精民國。...

### 金の死蔵は我等の恥辱

総力戦戸毎の金も赤榨！

金の應召我が家の譽！

⑨金の死蔵 戦時下、政府は米英両国などとの「第三国」貿易を推進することで、高度な軍事物資の獲得を図り、そのための金正貨の確保が重視された。

### 戦時貯蓄債券

戦時下、軍事費膨張で財政危機に陥った政府は国民の貯蓄を増進して、危機を乗り切ろうとした。

支那事変行賞賜金国庫債券

1937年の日中戦争から、41年の真珠湾攻撃を経て敗戦までの時期を、当時は政治的に支那事変と一括した。戦争に「功勞」のあった兵士に与えられた国債。

### 戦時貯蓄債券

戦時下、軍事費膨張で財政危機に陥った政府は国民の貯蓄を増進して、危機を乗り切ろうとした。

③支那事変行賞賜金国庫債券 1937年の日中戦争から、41年の真珠湾攻撃を経て敗戦までの時期を、当時は政治的に支那事変と一括した。戦争に「功勞」のあった兵士に与えられた国債。

学童集団疎開

一九四四年（昭和一九）六月以降、米軍爆撃機B29による本土空襲の危機がせまった。そこで政府は「学童疎開促進要綱」を六月三〇日に決定し、国民学校初等科三年生以上の集団疎開を決めた。東京都は七月に約二〇万人の集団疎開計画を進めて、静岡県では受け入れ学童約二万八〇〇〇人とした。

志太郡一カ町村では疎開学童受入委員会を結成し、食事・教育施設・配給体制など統一的に対応することにした。志太郡下三八カ所では一〇月当時に疎開学童二二五七人を收容し、引率教師・寮母・作業員を加えると約二五〇〇人に達した。

学徒勤労動員は、戦争の長期化で軍需工場や農村では、労働力不足が深刻になった。

政府は一九四四年三月「学徒動員実施要綱」を出して、中学校以上の生徒の通年勤労動員を決定した。政府は国家総動員法に基づき国民動員計画を立て、「学徒勤労令」を八月に勅令で公布した。

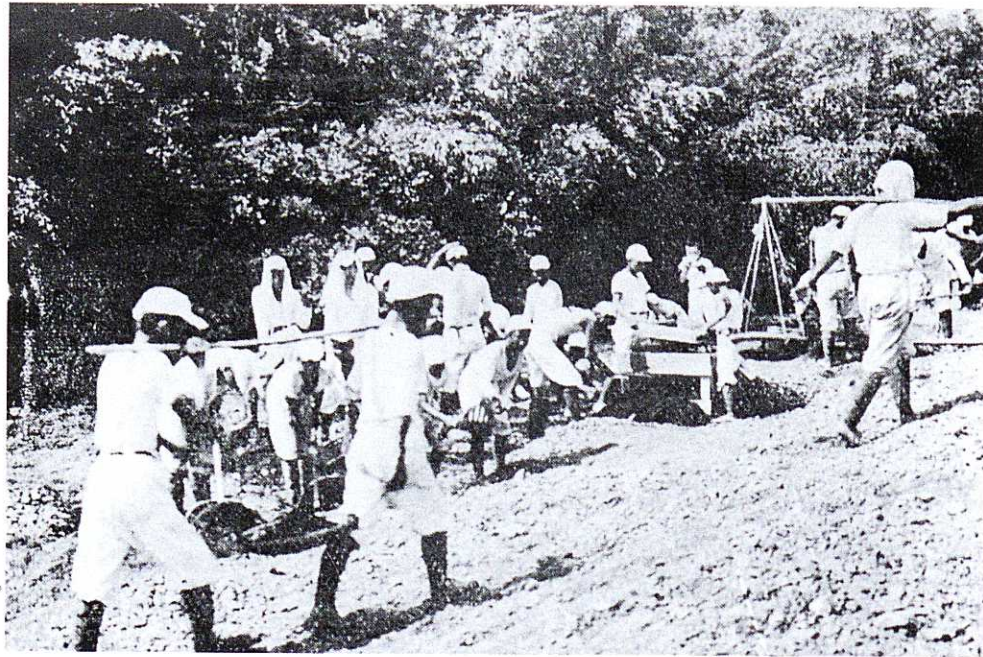
政府は一九四五年（昭和二〇）三月に「決戦教育措置要綱」を決定して、四月より国民学校高等科以上の学校の全授業を一年間停止した。軍需工場や農村に動員された生徒達は、長時間の重労働と粗食の毎日で、育ち盛りの彼らには耐え難いものであった。

③志太地域の学徒勤労動員状況（1945年1～8月）

学校	現在	性別	生徒数	動員先
焼津女子商業学校	焼津高校	女子	160	焼津・東亜防水会社、沼津・石橋蚕糸工場、日立製作所清水工場
県立焼津水産学校	焼津水産高校	男子	230	焼津・赤坂鉄工所、焼津・三和製作所、清水食品会社
県立志太中学校	藤枝東高校	男子	566	藤枝・朝比奈鉄工場、住友金属工業静岡工場、用宗・小柳造船所、日立製作所清水工場、藤枝海軍飛行場工事
県立藤枝高等女学校	藤枝西高校	女子	357	沼津・海軍工廠、藤枝・朝比奈鉄工所、焼津・東亜製作所
県立藤枝農学校	藤枝北高校	男子	不明	近隣農家援農作業
青島女子商業学校	藤枝順心高校	女子	100	神奈川県相模原・相模陸軍造兵廠

\*各校『学校誌』より作成。

\*3～4月卒業・進級で動員先・動員数変更あり。



④焼津水産学校生徒の勤労作業  
1938年（昭和13）4月に「国家総動員法」が公布されて、生徒の集団勤労作業が開始した。男子生徒は夏期休業中に、学校施設や農耕地の開墾作業を行った。  
\*静岡県立焼津水産高等学校「校友会誌」第14号より転載。



⑤小川国民学校生徒の勤労作業  
政府は1943年（昭和18）1月、「生産増強勤労緊急対策要綱」を決定した。さらに6月に食糧増産の応急対策を出して、生徒達を農作業に動員した。

①焼津地域における大森・蒲田区の学童集団疎開状況

国民学校名	地区・寺院	疎開人数		受入学校
		学年	人数	
入新井第二	焼津・普門寺	5年女	38	焼津東国民学校
〃	焼津・貞善院	5年男	42	〃
入新井第四	小川・永豊寺	3～5年男	117	小川国民学校
〃	小川・教念寺	〃		〃
入新井第五	小川・光心寺	4年女	34	小川国民学校
馬込	和田・成道寺	5年	90	和田国民学校
馬込第二	豊田・大永寺	3・5年	104	豊田国民学校
都南	焼津・天理教会	不明	46	焼津東国民学校
矢口西	東益津・林叟院	6年男	69	東益津国民学校
〃	東益津・弘徳院	6年女	42	〃
蒲田	小川・信香院	5年	61	小川国民学校

①焼津町等における学童集団疎開  
大森・蒲田区の生徒が1944年8月より11月にかけて、11カ所に643人が集団疎開した。翌年6月空襲の危険が高まり、生徒達は東北に再疎開した。

\*『平和のいしずえー大田区の学童集団疎開』220～253頁より作成。



②林叟院（東益津地区）に学童集団疎開 蒲田区矢口西国民学校の6年男子生徒69人は、1944年（昭和19）11月20日に疎開してきた。翌年2月24日、生徒達は卒業のため東京に戻った。

海軍航空隊藤枝基地と軍徴用焼津漁船

海軍航空隊 一九四三年（昭和一八）十一月、藤枝基地 軍横須賀鎮守府は志太郡静浜村（現大井川町）に航空基地建設を決定した。海軍施設地域として、静浜村藤守・上小杉地区の大半と宗高・下小杉地区、和田・大富・吉永村の一部が買収された。

一九四五年一月、海軍航空隊藤枝基地が発足した。配属部隊は、関東航空部隊第一六攻撃隊（夜間戦闘機隊）藤枝芙蓉部隊である。訓練機として艦上爆撃機彗星と零戦等が配備された。芙蓉部隊は三月以降沖縄戦のために、鹿児島鹿屋・岩川基地へ移動し出撃した。

軍徴用 一九三七年（昭和一二）七月に日中焼津漁船 戦争が始まると、陸海軍より小型漁船が運搬用に徴用された。一九三八〜四〇年一月までに、鉄鋼船・木造漁船を含めて焼津地区で三八隻が徴用された。

一九四一年一二月に太平洋戦争が始まり、陸海軍による漁船徴用が急増した。南洋方面作戦を担当する連合艦隊第四艦隊の警備隊、第五艦隊第二二戦隊（黒潮部隊）の哨戒部隊は、漁船で編成され多数の漁船員と漁船が犠牲になった。焼津地区の徴用漁船延べ一三三隻、戦災被害五九隻、犠牲者約四〇〇人に達し、漁業は壊滅状態であった。

④太平洋戦争における海軍徴用の焼津漁船

第5艦隊北方部隊哨戒部隊・第22戦隊（黒潮部隊）（1942年3月～）

北方部隊	基地	隻数	焼津漁船	隻数
第22戦隊	横須賀軍港	(主艦)	赤城丸、粟田丸、浅香丸	
第1監視艇隊	昌栄丸	25	第5福一丸、第3八千代丸、第2三徳丸、新勢丸、甚生丸、第1福德丸	6
第2監視艇隊	安州丸	25	第3松盛丸、第1福久丸、第5恵比寿丸、榮吉丸	4
第3監視艇隊	母艦 羅門丸	26	第8日之出丸、第3福久丸、第3福吉丸、新洋丸	4
第4監視艇隊	豊国丸	22		
第5監視艇隊	長運丸	27	第2松生丸、第2明神丸、第1繁伍丸	3
第6監視艇隊	神鷹丸	26	第6勇喜丸	1

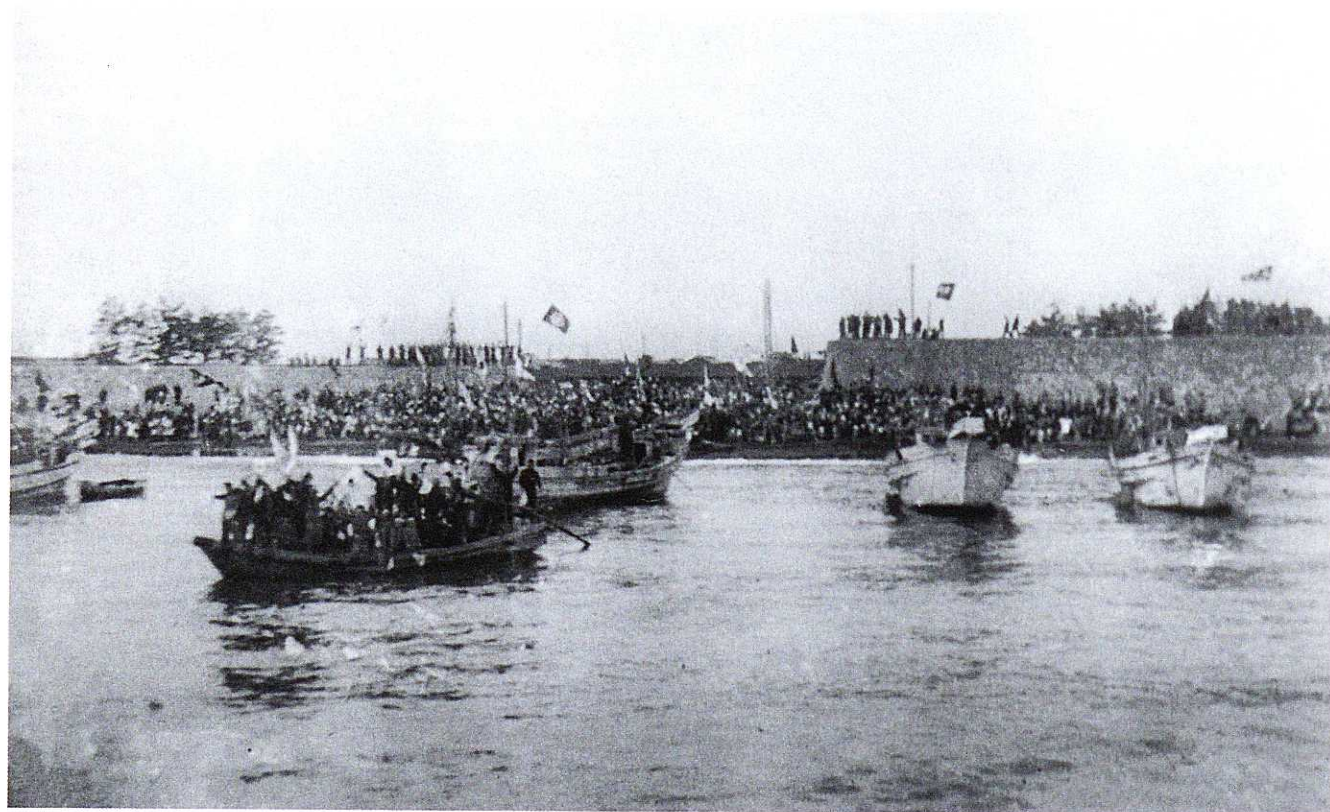
第4艦隊警備隊（1942年4月～）

警備隊	配置	隻数	焼津漁船
第41警備隊	トラック島	5	第1金宝丸、第1吉祥丸、幸生丸
第42警備隊	ボナベ島	2	第2春日丸
第43警備隊	パラオ島	5	水天丸、第1亀宝丸
第61警備隊	クエジェリン島等	13	(前年、防備隊として配備) (第1見宝丸、第5富久丸、第5福吉丸、第5愛鷹丸、第5日之出丸) 第5三国丸
第64警備隊	ウオッチェ島	10	第5福吉丸、第5愛鷹丸
第65警備隊	ウエーク島	7	第5新開丸

\*『漁船の太平洋戦争』42～45頁等より作成。

\*『焼津市史』資料編五-234号、「機密・北方部隊哨戒部隊命令第3号・哨戒部隊命令」等より作成。

\*焼津漁船の配備について年次により変更あり。



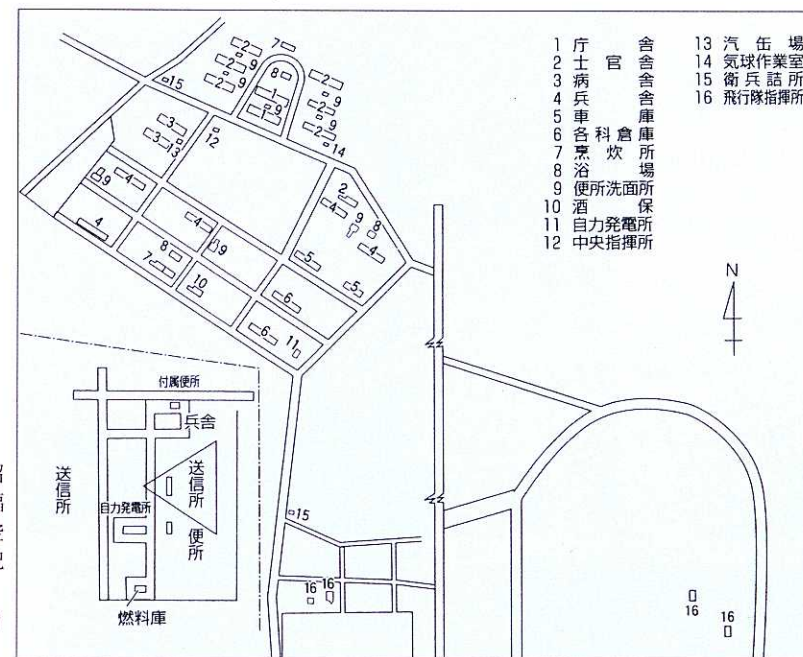
⑤出動する徴用漁船の見送り 1940年（昭和15）12月に第1金宝丸は佐世保鎮守府により徴用されて、中国大陸封鎖作戦に参加した。この写真は第1金宝丸の船上から写されたものである。

⑥焼津地区における年代別軍徴用漁船と戦死者数

年次	陸軍	海軍	農林他	合計	沈没船等	犠牲者数
1938	13隻	7隻		20隻		
1940		18隻		18隻		
1941		22隻		22隻	1隻	3人
1942		2隻	5隻	7隻	2隻	7人
1943	7隻	4隻	4隻	15隻	3隻	54人
1944	1隻	17隻	5隻	23隻	31隻	170人
1945	8隻			8隻	22隻	167人
計	29隻	70隻	14隻	113隻	59隻	401人

\*『焼津漁業史』、『漁船の太平洋戦争』等より作成。

\*1939年は記録がないため不明。



①海軍航空隊藤枝基地図 1944年（昭和19）12月に飛行場全長1500m、幅200mが完成した。翌年3月、航空隊藤枝基地には、部隊員665人が配備された。  
\*『焼津市史』資料編四-361号より転載。



③海軍航空隊防空壕 航空隊施設として、頑丈な送信所（発電所カ）が残っていたが、現在は取り壊された。滑走路は現在航空自衛隊が使用している。（大井川町）



②芙蓉部隊記念碑（大井川町／航空自衛隊静浜基地）

一九三一年(昭和六)九月一八日に関東軍によって開始された満州事変は翌三三年三月、「満州国」を成立させ、軍部の政治力をますます強化させる契機となり、五・一五事件、三六年二・二六事件を経て、軍部に対する政務のコントロールの實質的崩壊を決定付け、政党は競って「愛国」と東アジア侵略の膨張を容認し、近隣諸国民に多大な犠牲と苦しみを与えていった。同時に戦争指導の陸、海軍対立を調整できぬままに、彼らの力関係の冷静な分析を見失わせ、真珠湾の一時的成果に酔いしれ、一路敗北の道を進むことになった。

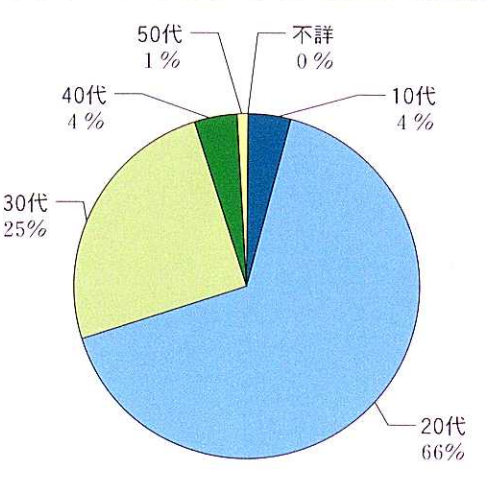
戦局の変化とともにますます増加していった戦争犠牲者を、焼津地域からの出征兵士や軍徴用漁船員の戦病死地域や年代を捉えることで裏書きしたい。それによると、一九三〇年代は主として中国本土での戦病死者を多数生みだし、その後戦争終結までは太平洋上・フィリピン・沖縄といった戦場での被害を加え、戦後は強制労働に苦しんだシベリアでの被害へと拡大していった。これはまさに戦争指導の誤りを示している。歴史に「もしも」が許されれば、一九四五年四月、鈴木貫太郎内閣成立期に終結を決めていたら、沖繩、広島、長崎での多くの死を防ぐことができたかもしれない。

④旧町村別人口と戦病死者数の対比

	世帯数	総数	男	女
豊田村	594戸	3577人	1703人	1874人
大富村	1035戸	6570人	3245人	3325人
和田村	1013戸	6256人	3039人	3217人
小川村	1896戸	10457人	5209人	5248人
東益津村	1154戸	7005人	3459人	3546人
焼津町	5581戸	30603人	15388人	15215人
総計(A)	11273	64468	32043	32425
陸軍戦病死者数		1769人		
海軍戦病死者数		561人		
陸・海軍戦病死者数合計(B)		2330人		
B/A (%)	20.7	3.6	7.3	-

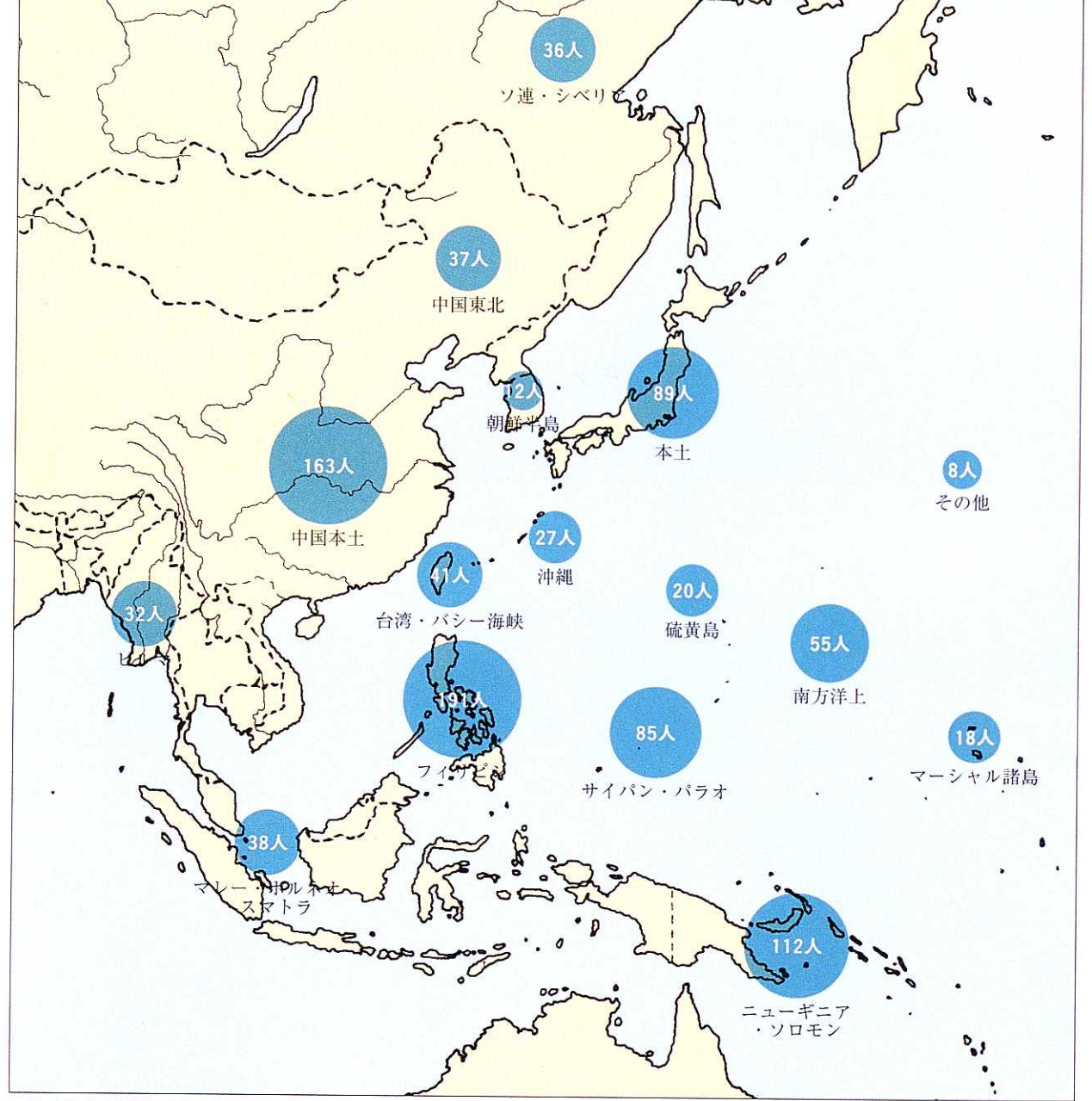
\*1950年国勢調査、各地区「英霊名鑑」より作成。  
 \*戦病死者数は1931~49年までに限定した。  
 ④表から総世帯数の5戸に1戸に犠牲を強いたことがわかる。

③焼津5地区(大富村を除く)戦病死者年齢構成

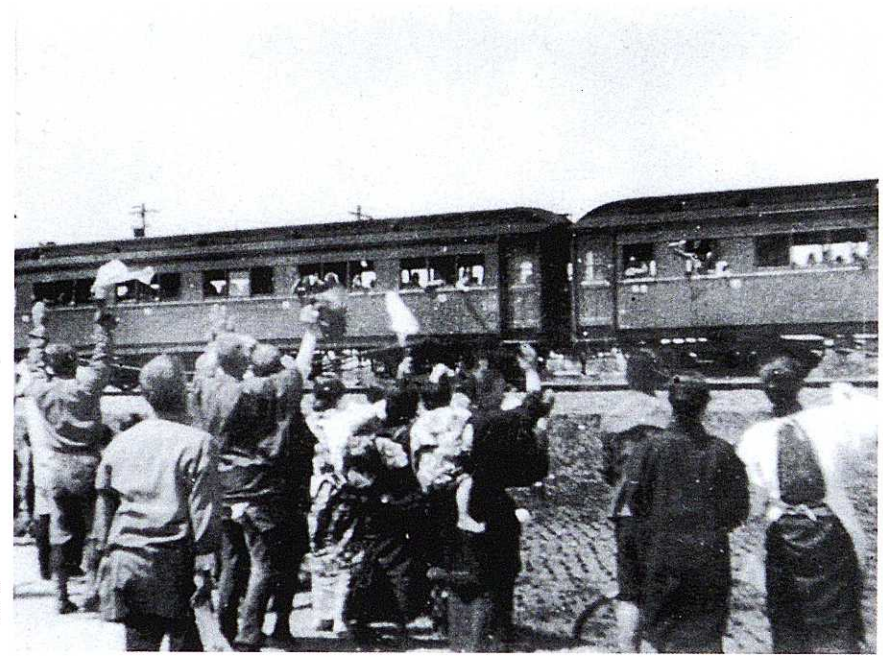


\*各地区「英霊名鑑」より作成。なお、大富村は年齢の記載がなかったため除いた。  
 ③20代が3分の2を占め圧倒的であり、30代が4分の1、この他に10代の犠牲は漁船の乗組員、あるいは満蒙開拓団青少年義勇軍として犠牲になっている。

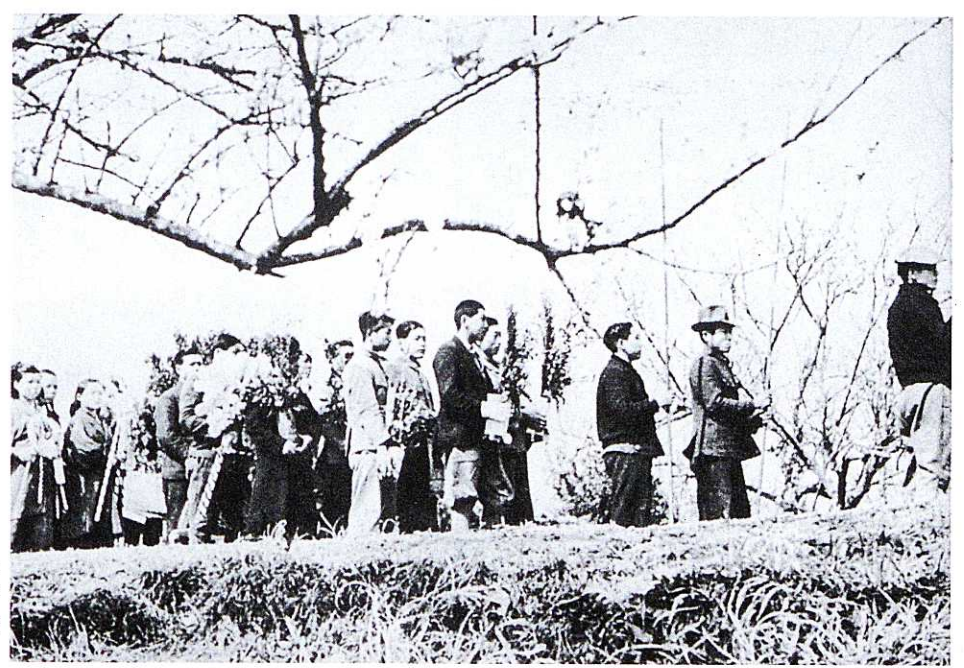
⑤旧焼津地区陸海軍戦病死者地域別変化



\*旧焼津地区「英霊名鑑」より作成。  
 ⑤この戦没兵士の地域別数字をみるだけでも戦争の広がりを感じさせる。この戦線拡大をとうてい日本の戦力では支えられなかった。



①見送り 出征兵士を乗せた列車を見送る家族などの人々。



②町村葬 家郷へ帰ってきた遺骨は、懐しい村人達の手で懇ろな町村葬となる。焼津市大覚寺にて。